

National

ナショナルガススチーマシステム (屋外用)

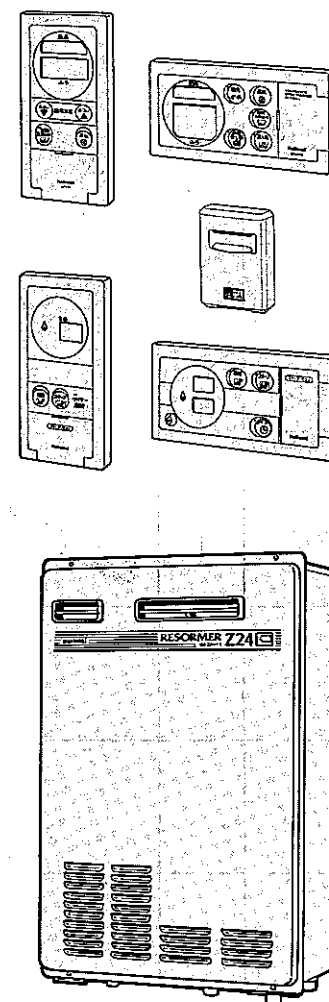
品番

GX-Z241TX

工事説明書

*工事をされる方へのお願い

この器具を正しく安全にご使用いただくために、この説明書をよくお読みになって、指定された工事を行なってください。この説明書は必ずお客様にお渡しください。



もくじ

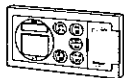
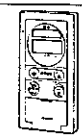
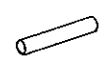
ページ

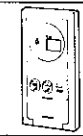
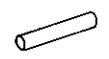
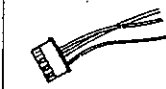
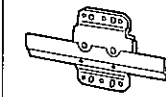
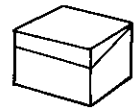
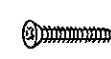
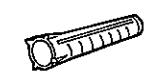
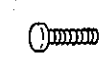
開こん	1
設置前のご注意	3
器具の設置	7
給水・給湯配管工事	10
自動給湯配管工事	12
凍結防止工事・ガス配管工事	15
スチーム配管工事	16
電気配線工事	23
設置工事後の点検確認	36
試点火および試運転	37
仕様	38
外形寸法図	40

松下電器産業株式会社
松下住設機器株式会社 給湯システム事業部
〒639-11 奈良県大和郡山市筒井町800番地
電話 大和郡山(07435)-6-1121(大代表)

開こん

・付属部品の確認をしてください。

区分	部品名	個数	形状	区分	部品名	個数	形状
ふろリモコン用 (給湯・ふろ)	ふろリモコン	1		メインリモコン用 (給湯・ふろ)	メインリモコン	1	
	空気抜きパイプ	1			木ねじ	2	
	化粧カバー	1			PYプラグ	2	
	ナット	1			小ねじ	2	
	ワッシャ(小)入 木ねじ	2		配管接続用	テレコン用 リード線	1	
	PYプラグ	2			溶ダー継手 パイプ (自動給湯接続口用)	1	
	チューブ	1			パッキン (自動給湯接続口用)	1	
	ケツソクバンド	5		—	アース線	1	

区分	部品名	個数	形状	区分	部品名	個数	形状
浴室リモコン用	浴室リモコン	1		メインリモコン用 (スチーマー)	メインリモコン	1	
	ワッシャ(小)入 木ねじ	4	 (2本は使用しません)		木ねじ	2	
	PYプラグ	4	 (2個は使用しません)		PYプラグ	2	
	チューブ	1			小ねじ	2	
	ケツソクバンド	5		本体用	テレコン用 リード線	1	
その他	スチーム 吐出器	1			取付板 (壁掛設置用)	1	
	ハーブ サンプル	1			木ねじ (取付板用)	7	
	径違い ソケット (排水口用)	1			カールプラグ	7	
					M5 ねじ (PS 設置用)	4	

設置前のご注意

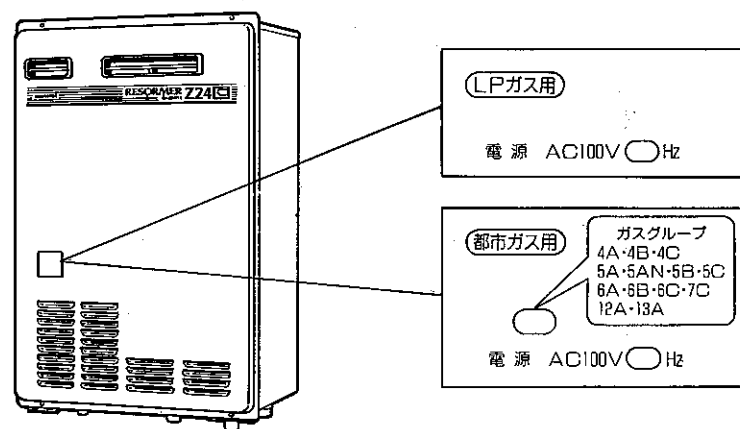
■ 設置する器具の確認

(1)使用ガスに関する事項

設置する器具が使用するガス（ガスグループ）に適合していることを確認してください。

(2)使用電源に関する事項

器体（銘板）に表示してある電源（電圧・周波数）以外の電源では使用しないでください。



(3)パナソーラへの接続について

- この器具は、ソーラ（太陽熱温水）システムに接続できません。

■ 設置場所の確認

設置場所を決められるときは、次の事項をよく確認してから決めてください。

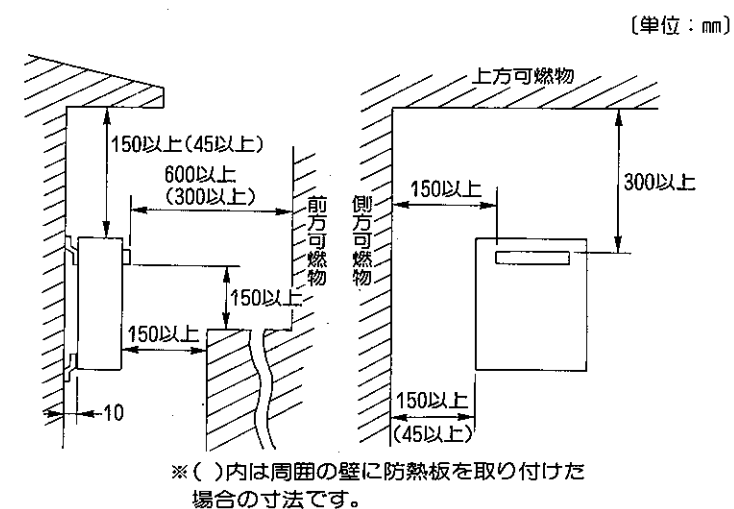
(1)火災予防について

- ガソリン、ベンジン、接着剤など引火性の危険物を扱う場所には設置しないでください。
- 洗濯の物干し場など燃えやすいもののあるところには設置しないでください。
- 器具を設置する場所の周囲の壁・天井などが防火上安全なものであるか、または防火上有効な間隔をとることができる場所に設置してください。



〈設置方法〉

可燃物までの距離は本体からと排気口からの両方を満足すること。

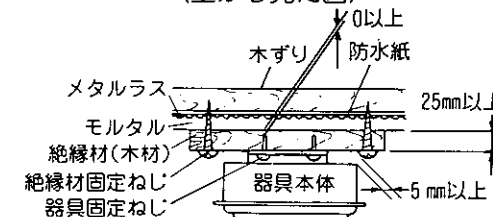


- メタルラス張りなどの壁に器具を取り付ける場合は、器具とメタルラスとは電氣的に接触しないように右図のような壁工事をしてください。

電気設備技術基準
182条により義務
づけられています

外壁面に取付ける場合

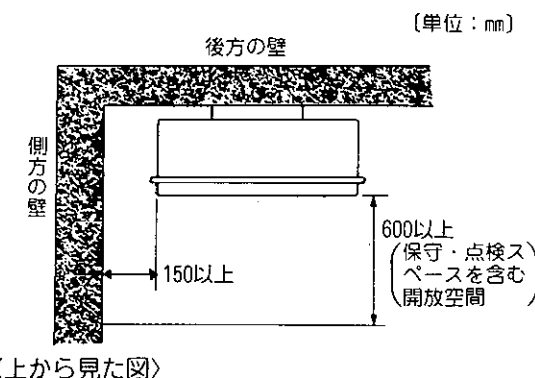
〈上から見た図〉



(2)給排気について

- この器具は屋外用です。屋内への設置はしないでください。

- 給排気が十分できる場所（開放スペース）に設置してください。

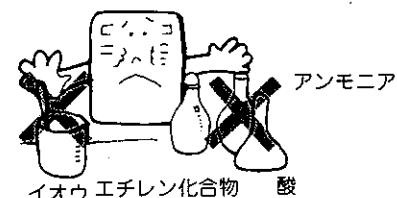


〈上から見た図〉

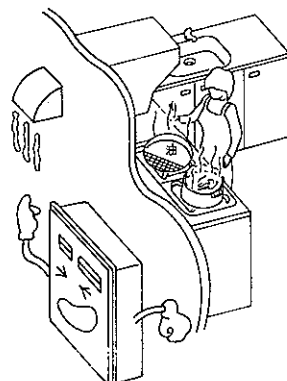
設置前のご注意

(3)設置場所のふん囲気について

- 業務用薬品を使用する場所はさけてください。



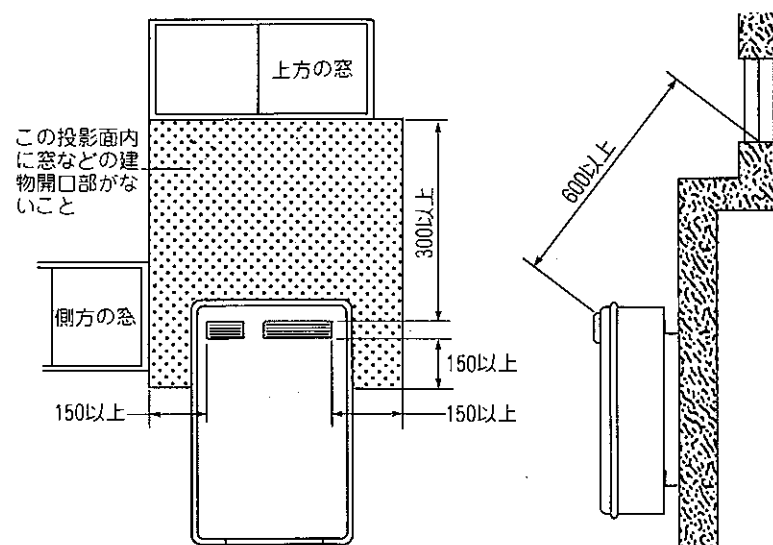
- 油煙・蒸気等が器具にかかる恐れのある場所への設置は不完全燃焼などの原因となりますので絶対に避けてください。



(4)設置場所の周辺について

- できる限り周辺に窓のない場所に設置してください。もし、上方に窓のある場合は300mm以上、側方にある場合は150mm以上離してください。
(室内に排気ガスが流入するのを防ぐため)

[単位: mm]



【建物開口部とは】

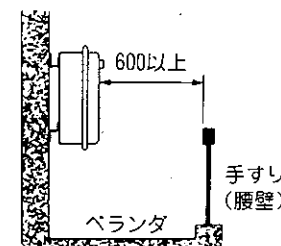
ここという建物開口部とは建物に設ける窓、ドアなどで可動し開口するもの(引違い窓、すべり出し窓、開きドアなど)をいい、明り取り用に設けるはめ殺し窓、片引き窓の固定されている部分は開口部とはいいません。

〔注〕特に隣家の窓などにご注意ください。熱気が入り苦情になることがあります。

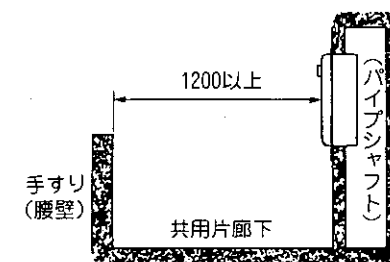
- 設置場所によっては、近隣の家と騒音によるトラブルが生じることがありますので十分配慮して設置してください。

- 階段、避難口近くへの設置はさけてください。パイプシャフト内設置の場合は共用片廊下方式の集合住宅とし、階段室への設置は原則としてできません。
- ベランダなどが避難通路となる場合は600mm以上の避難通路を確保してください。
- 集合住宅の共用片廊下に設置する場合には、1200mm以上の避難通路を確保してください。

[単位: mm]



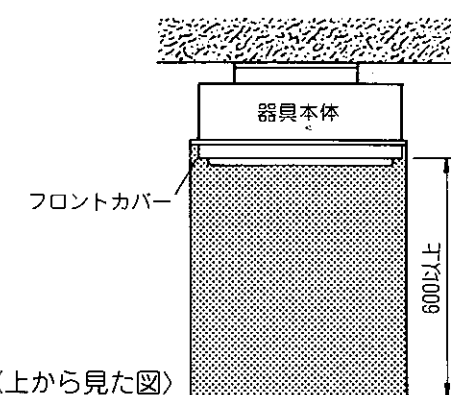
[単位: mm]



(5)保守・点検のためのスペース

- 器具の点検・修理ができるよう器具前方は600mm以上の空間を設けてください。
- 器具下方にも、配管工事および水抜き操作のできる十分なスペースを確保してください。

[単位: mm]



〈上から見た図〉

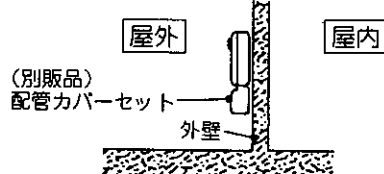
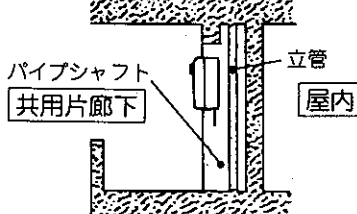
■付帯設備工事について

設置場所が決まりましたら、器具を設置する前に、次のような工事が必要です。

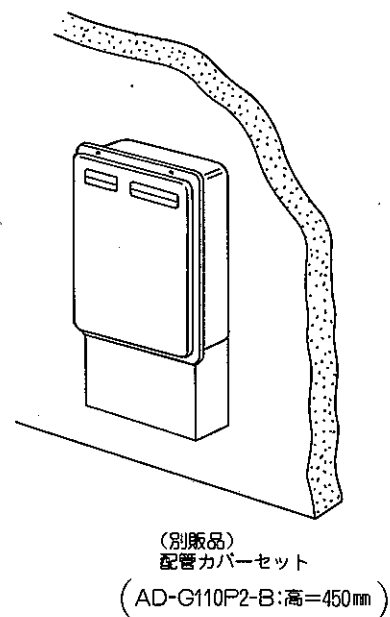
1. 外壁補強および基礎工事	●この器具を設置する外壁には約44kgの重量が加わりますので、十分な補強工事をしてください。 ●必ず垂直な壁に取り付けてください。
2. 排水処理工事	器具を設置した真下の地面・床面は水がたまらないように排水処理工事を行ってください。 試運転時、メンテナンス時および水系統の安全装置の作動時など、水が漏れる場合があります。
3. 「給水・給湯配管工事」、「自動給湯配管工事」、「凍結防止工事」、「ガス配管工事」、「電気配線工事」の各工事については、10～35ページをお読みください。	

器具の設置

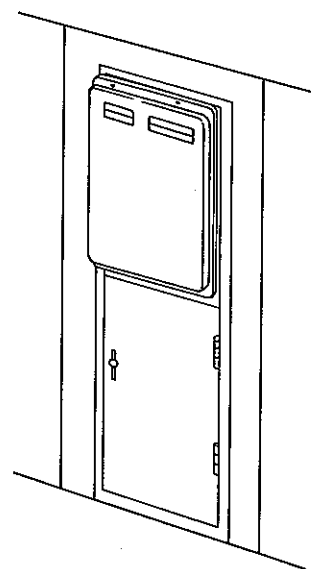
・この器具の設置方法には、外壁設置、パイプシャフト内設置との2通りがあります。

設置方式	設置形態	備考
外壁設置		戸建住宅の外壁および集合住宅のベランダ設置に最適。 〔別販品〕配管カバーセットをご使用ください。 AD-G110P2-B：高=450mm
パイプシャフト内設置		集合住宅のデッド・スペース利用として、パイプシャフト(メータボックス)内の空間に設置する方法。

■外壁設置の場合



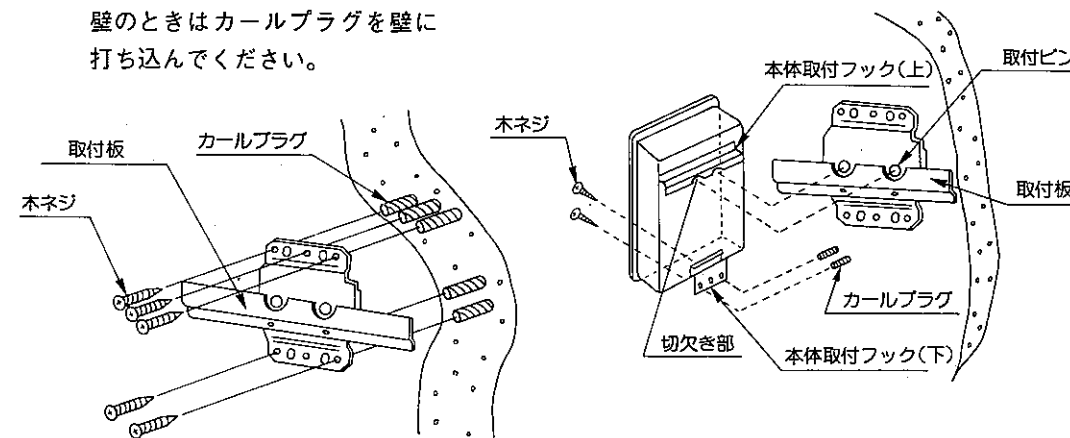
■パイプシャフト内設置の場合



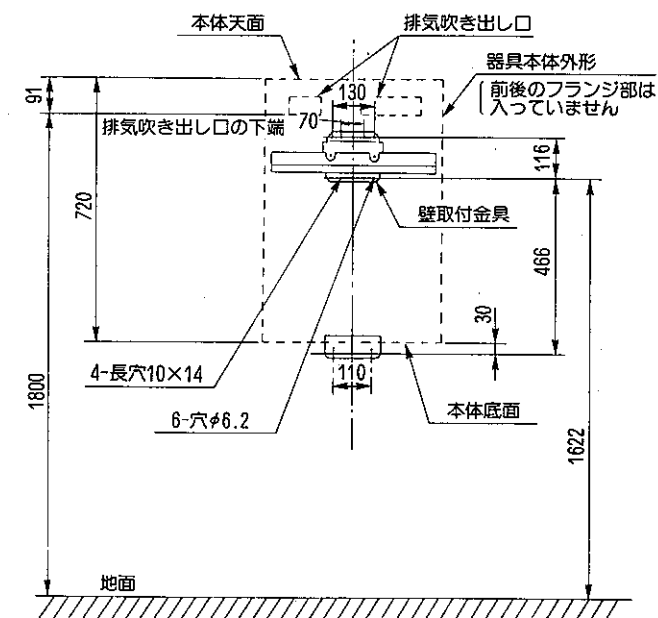
■外壁設置の場合

〈取付手順〉

- 壁面に取付板を木ねじ上3本下2本で取り付けてください。
 - 器具背面の本体取付フックを取付板のつめに引っ掛け、下側を壁面に木ねじ2本で固定してください。
- 〔注〕コンクリート、モルタルなどの壁のときはカールプラグを壁に打ち込んでください。



・取付板設置図〔単位：mm〕



■パイプシャフト内設置の場合

集合住宅のパイプシャフト内へ設置する場合は、取付金枠が必要です。なお、設置方法および配管方法などの詳細につきましては、当社営業所にお問い合わせください。

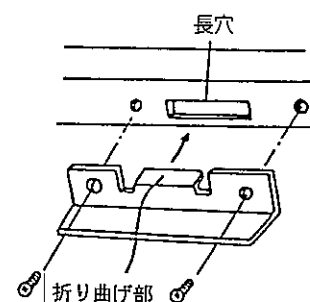
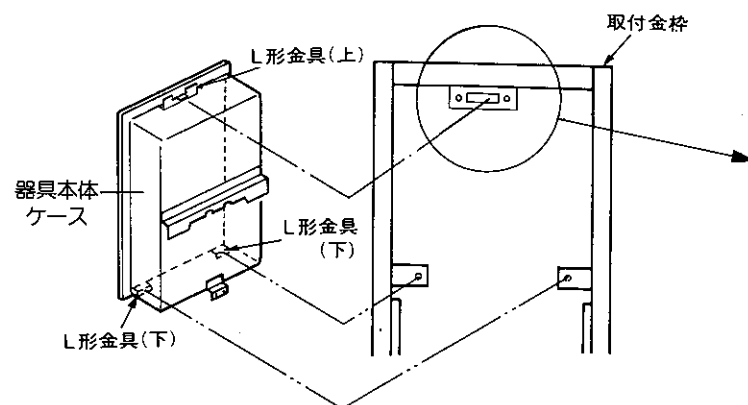
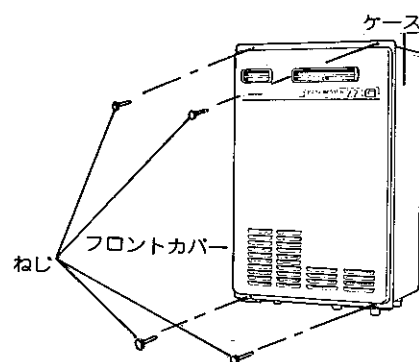
〔注〕

- ・パイプシャフト内設置については、様式・大きさ・換気口の有無など、各地消防署、水道局の規制がありますので、ご注意のうえ、適用される規則に従ってください。
- ・パイプシャフト内設置の扉の上下に有効面積100cm²以上の換気口を設けてください。

〈取付手順〉

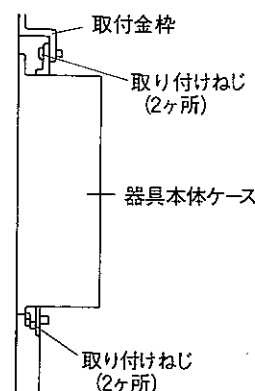
- 1 器具のフロントカバーを取りはずしてください。(ねじ4本)
フロントカバーの正面上下各2カ所のねじをはずし、フロントカバーを手前に引くとはずれます。

- 2 器具本体ケース上方のL型金具の折り曲げ部を取付金枠上部の長穴に引っ掛けて、ねじ2本で仮止めしてください。



- 3 器具本体ケース下方のL型金具の穴(2カ所)を取付金枠に合わせ、取り付けねじで固定したあと、上方の取り付けねじを締めてください。

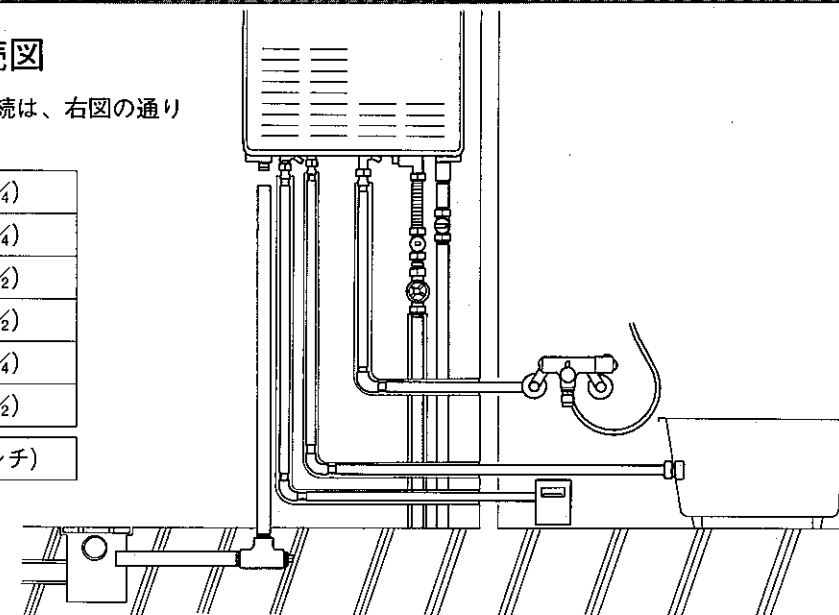
- 4 器具本体のフロントカバーを取り付けてください。
フロントカバーの正面上下各2カ所をねじで確実に締めてください。



■器具配管接続図

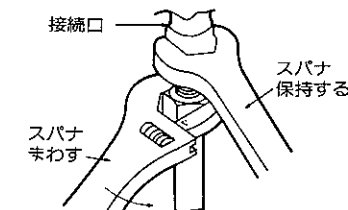
器具本体まわりの配管接続は、右図の通り行なってください。

給水	20A (R ¾)
給湯	20A (R ¾)
自動給湯	15A (R ½)
ガス	LPガス用 15A (R ½)
	都市ガス用 20A (R ¾)
スチーム	15A (R ½)
排水配管	25A (1インチ)



■給水配管

- (1)配管工事は、給水事業者の指定工事店に依頼し、給水事業者の規定に従ってください。給水・給湯配管工事で器具本体の接続口と配管をするときは、必ず、スパナなどを接続口のスパナ掛け部にかけて器具本体に無理な力がかからないように注意しながら、配管工事をしてください。



- (2)給水圧力について

- ・この器具は点火するために、〔器具の作動水圧〕＋〔給湯配管の損失水頭〕(通水時)以上の給水圧力を確保必要があります。

$$\text{必要給水圧 (器具入口圧)} = \text{作動水圧} + \text{損失水頭} + \alpha (\text{余裕})$$

- ・必要給水圧は給湯栓を全開にして通水したときの器具入口部の水圧です。
- ・ α (余裕) は幅広い湯量を得るために0.3kg/cm²以上を加算してください。

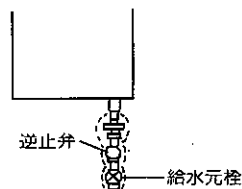
- ・ポンプを使用される場合は出力200W以上のポンプを使用し、器具と給水元栓の間に減圧弁(別販品：A D-3224 G B P)を必ず取り付けてください。
- ・ポンプの圧力スイッチの設定圧は最低圧1.4kg/cm²以上のものを使用してください。(ポンプ本体の銘板で確認してください。)

〔ご注意〕出力200W未満や設定圧1.4kg/cm²未満のポンプを使用したり、減圧弁を取り付けなかった場合には、湯温が変動します。

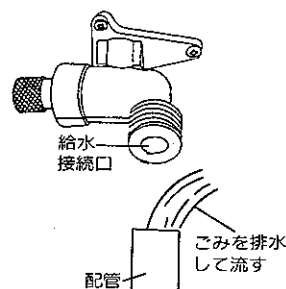
- ・器具の給水接続口の近くには、必ず給水元栓を取り付けてください。保守点検のときや、水抜き操作を行なうときに必要です。

- (3)給水管材料は、市町村水道局(課)承認のものを使用してください。
- (4)器具への給水は、できる限り専用の給水管を設けてください。
- (5)給水圧の低いときは、給湯配管設計に注意してください。
- (6)特に高い水圧地域では減圧弁(別販品：A D-3224 G B P)を必ず取り付けてください。

(7)器具の給水配管に逆流防止装置(逆止弁など)を取り付け、給湯側の水が逆流しないようにしてください。



(8)器具に接続する前に、必ず水を流して配管内のゴミを排出してください。



給湯配管

(1)配管は脱酸銅管の使用をおすすめします。

鉛管配管・塩ビ配管の使用は絶対にやめてください。使用している間に破裂する危険があります。

(2)器具は湯をひねるに使う場所の近くに取り付け、給湯配管はできるだけ短距離にしてください。

(3)継手類はできるだけ少なくし、複雑な配管はやめてください。

(4)必要以上の太い配管はやめてください。

(5)給湯配管は空気だまりを作らないようにしてください。

配管中に空気だまりがあると、給湯栓を閉めてから給湯側のバーナが消火するまでに時間がかかったり、給湯側を使用しないときに、他の水道栓を開閉すると、給湯側のバーナに瞬間的に火がつくなどの現象が生じます。

(6)給湯配管は水抜きが容易にできるようにしてください。

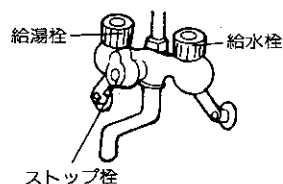
給湯配管は水抜きが容易なように1/100~1/200程度の先上がり勾配をつけてください。

(7)シャワーセットおよび混合水栓について

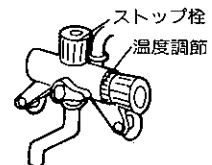
・シャワーセットは圧力損失の少ないものを使用してください。圧力損失の高いシャワーセットを使用されますと、十分な湯量が得られない場合があります。

・混合水栓(シャワー付、シャワーなし)には、次のようなタイプの他いろいろな種類がありますので用途にあわせてご使用ください。

ワンストップ混合水栓



サーモミキシング混合水栓



(8)2階へ給湯する場合は、器具入口で1.5kg/cm²以上(通水時)の給水圧力が必要です。

(詳しくは、必要水圧の計算をし、その値より大きな給水圧力を確保してください。)

風呂接続アダプタ(別販品)の準備

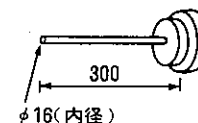
- ・浴そう側には、風呂接続アダプタが必要です。設置条件により適切なタイプをご使用ください。
- ・風呂接続アダプタの形状は設置条件・工事方法によって選べるように8種類そろえています。

〔ロー付けタイプ〕

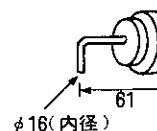
GW-P18-S
(ショートタイプ)



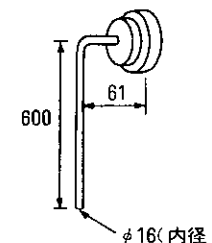
GW-P18-S L
(ロングタイプ)



GW-P18-L
(ショートタイプ)



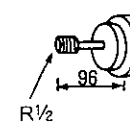
GW-P18-L L
(ロングタイプ)



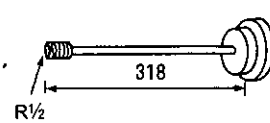
〔フレキ接続タイプ〕

〔単位: mm〕

GW-P18-S F
(ショートタイプ)



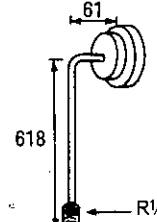
GW-P18-S F L
(ロングタイプ)



GW-P18-L F
(ショートタイプ)



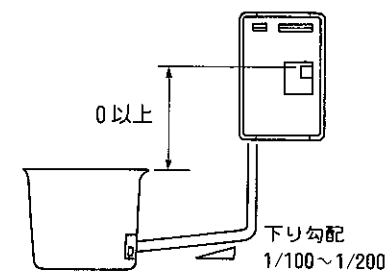
GW-P18-L F L
(ロングタイプ)



器具と浴そうの位置関係

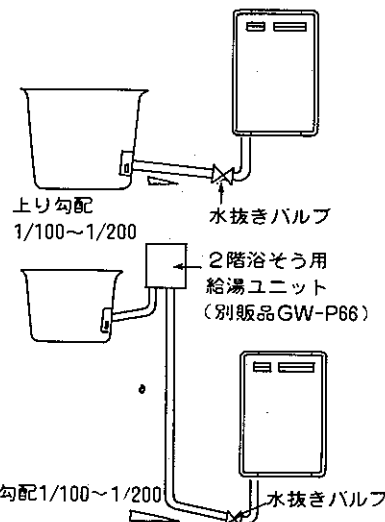
〔1階浴そうの場合〕

- ・浴そうの上縁は器具のフロントカバーの表示位置より必ず下にしてください。
- ・自動給湯配管は浴そうに水が抜けるように勾配をつけてください。
- ・浴そうに水が抜けない場合には、自動給湯配管のもっとも低い位置に水抜きバルブを設けてください。



〔2階浴そうの場合〕

- ・2階浴そうに接続する場合、2階浴そう用給湯ユニット(別販品 GW-P66)が必要です。別販品に同この工事説明書に従って、工事してください。



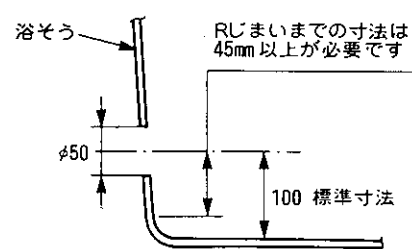
自動給湯配管工事

■ 配管工事

- 自動給湯配管は、15m・10曲がりまでを限度としてください。
- 配管は脱酸銅管の使用をおすすめします。鉛管配管・塩ビ配管の使用は絶対にさけてください。使用している間に破裂する危険があります。
- 自動給湯配管工事で器具本体の接続口と配管をするときは、器具本体に無理な力がかからないようにしてください。

(1) 浴そうの穴あけ

- 浴そうに、ホルソーでφ50の穴を1カ所あけてください。

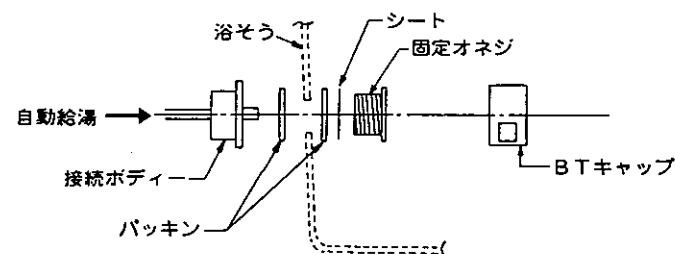


[単位: mm]

※標準寸法以外ですと浴そうの湯温が均一になりにくくなります。

(2) 浴そう側との接続

① 風呂アダプタをいったん分解します。

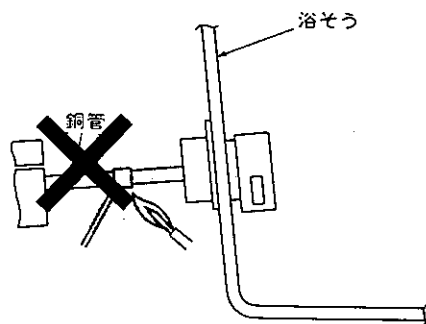


② 風呂接続アダプタの接続ボディーと銅管を接続します。

- 接続ボディーの接続方法は、種類により異なりますので、前記12ページをご覧くださいのうえ、接続してください。

[注]

風呂接続アダプタを浴そうに取り付けたまま、銅管をロー付けすると、浴そう(特にポリ浴そう)やバックンなどをいためることになりますので、必ず接続ボディーと銅管を接続したあとで、浴そうに取り付けるようにしてください。



- 風呂接続アダプタの浴そうへの取り付けは、風呂接続アダプタ同この工事説明書の分解図通りに取り付けてください。
- BTキャップの取り付けは刻印「ウエ」文字が「上」側となるように取り付けてください。BTキャップの取り付け方法が正しくない場合は、浴そうの湯温が上下均一にならないことがあります。

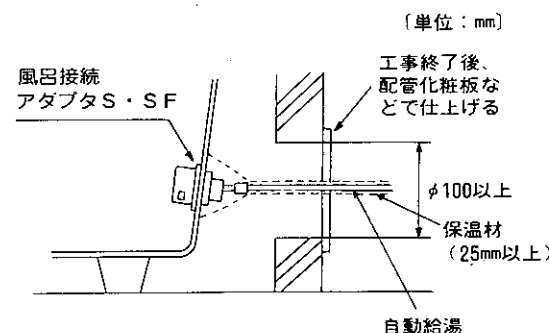
③ 風呂接続アダプタを浴そうの穴に合わせて取り付けてください。

- 銅管を接続した接続ボディーが浴そうの穴にうまく合わない場合は、無理に取り付けしないで、もう一度、銅管接続をやり直してください。

■ 浴そうとの接続例

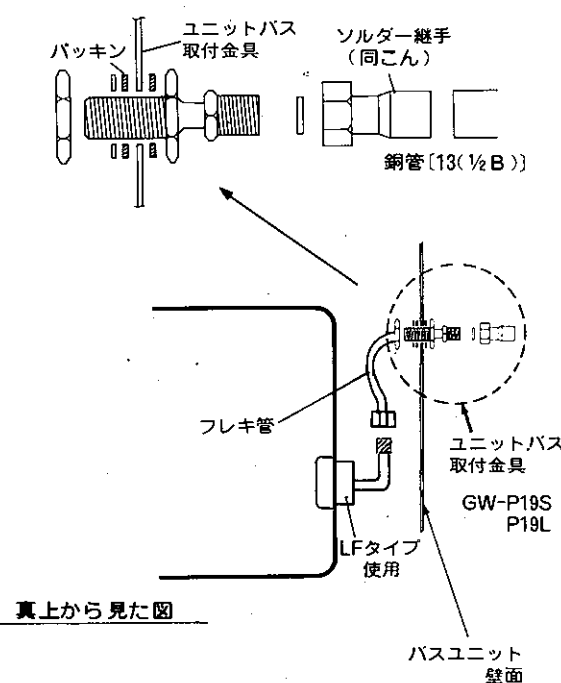
● 壁貫通して接続する場合

主に戸建1階浴そうなど、直に壁を貫通して接続する場合は、風呂接続アダプタSまたはSFを使用します。



● ユニットバスに取り付ける場合

主にユニットバスの浴そうなど、ユニットを貫通して接続する場合は、風呂接続アダプタとユニットバス取付金具(別販品)を合わせて使用します。



凍結防止工事

- ・配管は必ず保温材(厚さ25mm以上)で被覆してください。
(フレキシブルチューブも必ず保温してください。)
- ・冷え込みの厳しい地域では、さらにナショナル水道凍結防止器(品番D R2232、30W以上)を配管およびバルブ類に巻いて、十分な保温を行なってください。
- ・パイプシャフト内の配管には水道凍結防止器などの電気ヒータは使用できませんので、保温材を厚めにしてください。
- ・水抜き栓は、保温材で包み込まないでください。
- ・配管内の水抜きが容易にできるように措置をしておいてください。

ガス配管工事

(1)ガス元栓

器具を使用する場所にガス元栓がない場合、あるいは、あっても位置や寸法などが適切でない場合には、新設・移設または交換などが必要です。ガス供給業者にご相談のうえ、ガス元栓を必ず取り付けてください。

(2)ガス接続

- ・ガス接続口には、必ずユニオンを取り付けてください。
- ・ガス接続口径

ガ	ス	種	配管径(配管長さ20mまで)
	L P	ガス用	15A (R 1/2)
	都市	ガス用	20A (R 3/4)

- ・配管接続は、ガス供給業者の指定する工事店に依頼し、ガス供給業者の指定する材料および工法で行なってください。

(3) L P ガス用ガス容器の容量にご注意ください。

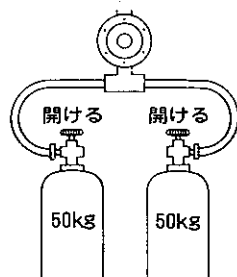
- ・この器具だけをお使いになるときの適用L P ガス容器は下表のとおりですが、長時間の連続使用、他のガス器具との同時使用、冬期にL P ガス容器のガス発生量が低下することを考慮して適当に増加してください。

表示ガス消費量	ボンベ数
4.65kg/h	50kg型.....2本併設

〔参考〕
冬期蒸発量(0℃連続使用)

10kg型	0.55kg/h 最大
20kg型	1.05kg/h 最大
50kg型	2.50kg/h 最大

- ・L P ガス用調整器は、表示ガス消費量に見合った家庭用・業務用の低圧調整器を使用してください。
〔ご注意〕工業用の中・高圧用は絶対に使用しないでください。

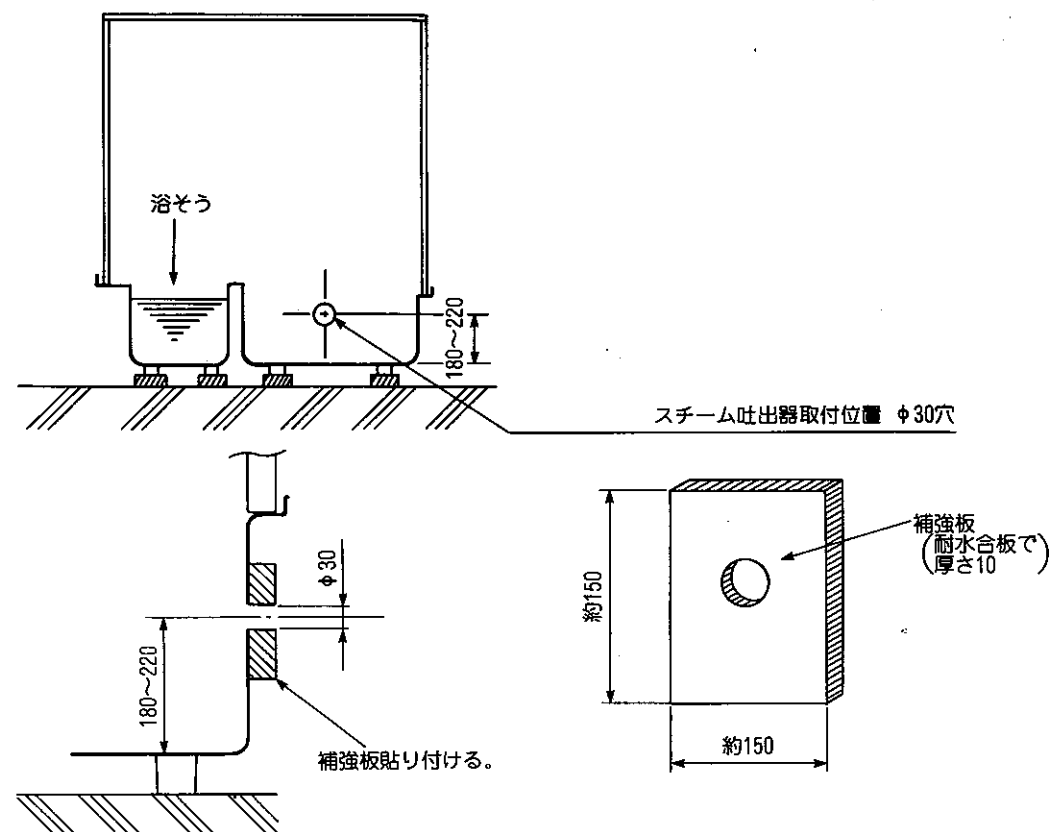


スチーム配管工事

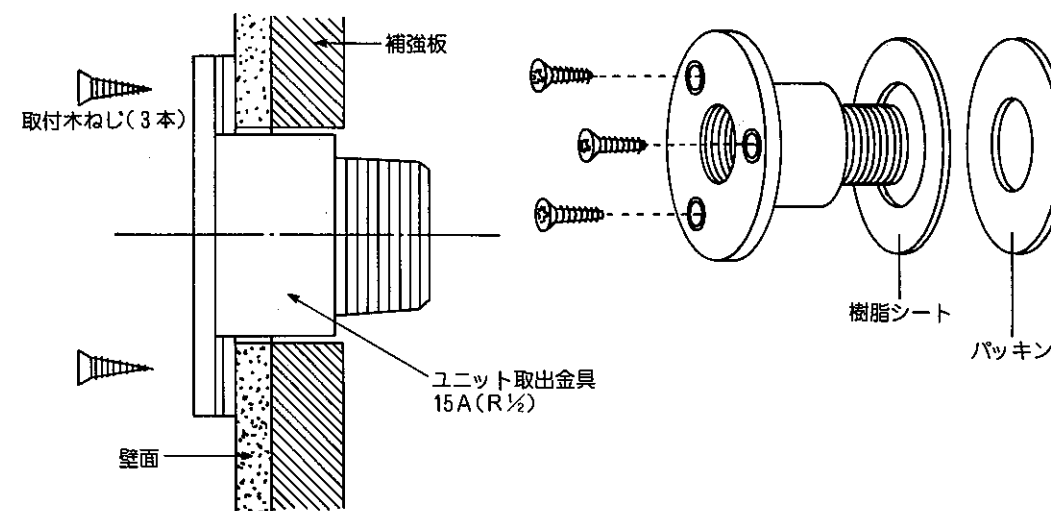
■ スチーム吐出器の取り付け方

〈ユニットバスの場合〉

〔単位:mm〕

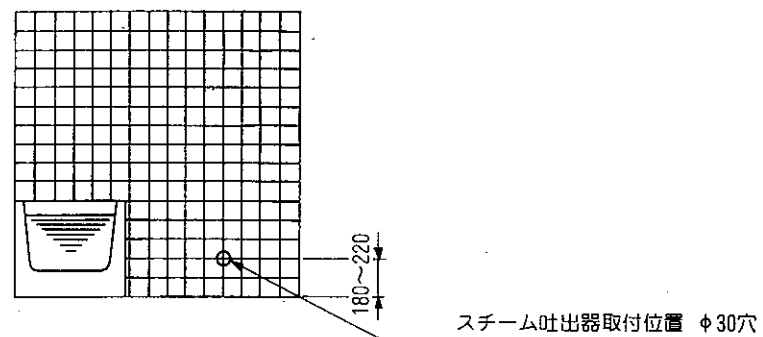


ユニット取出金具(市販品)を取り付ける。

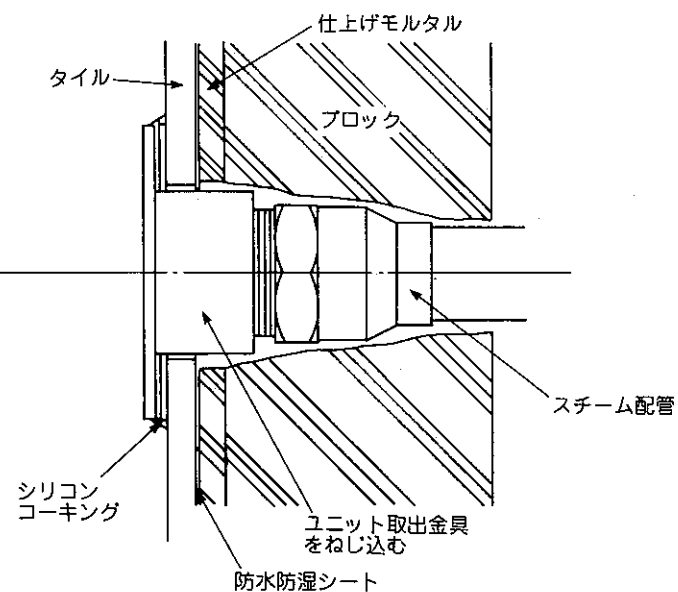
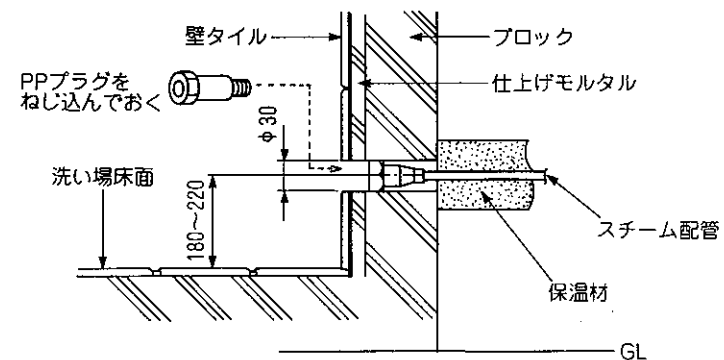


スチーム配管工事

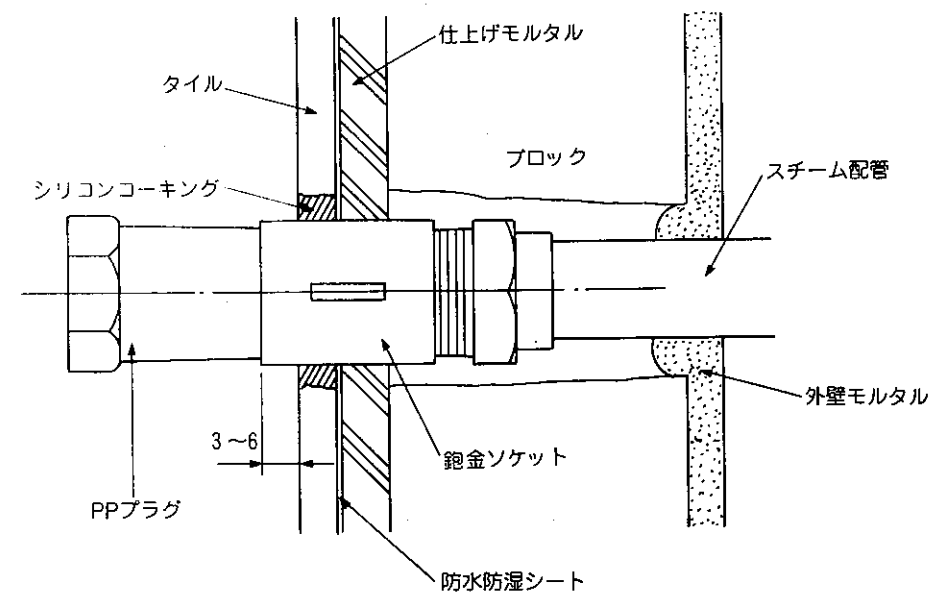
〈乾式工法によるタイル浴室の場合〉



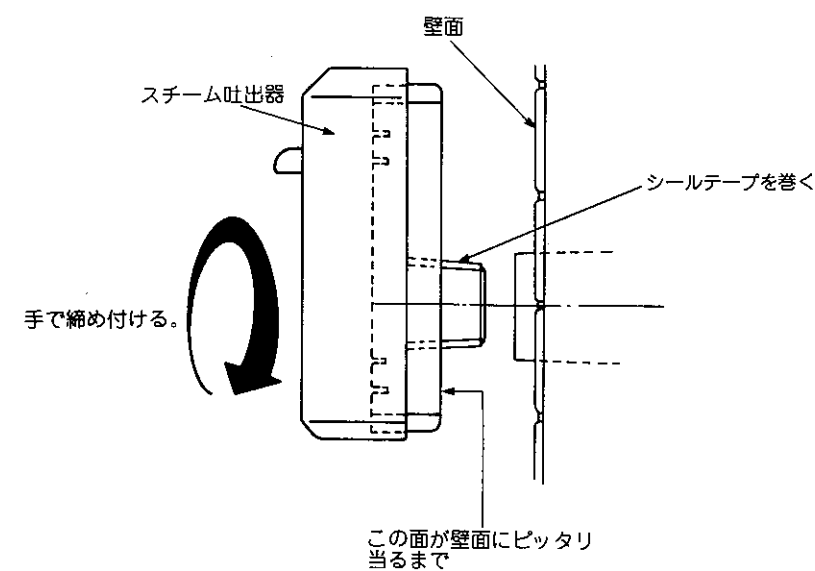
(1)ユニット取出金具を使用する場合



(2)ソケットを使用する場合〈スチーム吐出器取付部〉



スチーム吐出器の取り付け



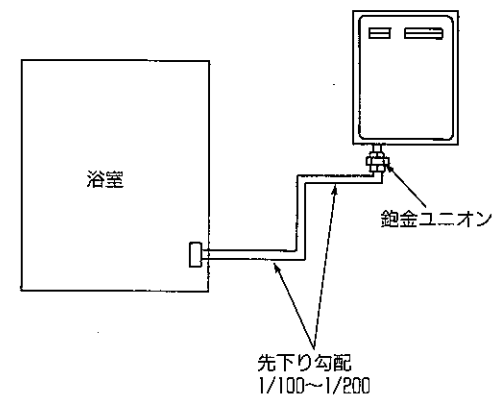
スチーム配管工事

■ スチーム配管

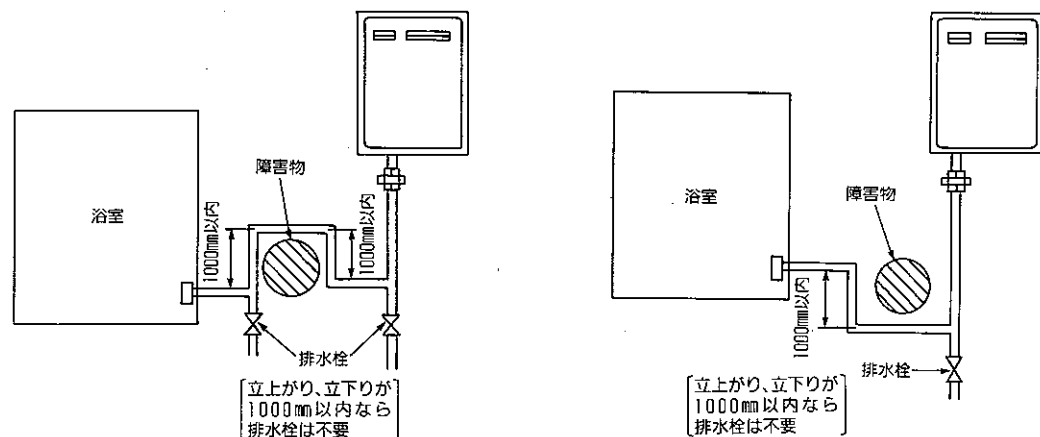
- (1)配管は脱酸銅管を使用してください。
鉛管配管・塩ビ配管の使用は絶対にさけてください。使用している間に破裂します。
- (2)器具は浴室の近くに取り付け、スチーム配管はできるだけ短距離にしてください。(18m以下のこと)
- (3)継手類はできるだけ少なくし、複雑な配管はさけてください。
- (4)スチーム配管は15A(1/2インチ)以上にしてください。
- (5)スチーム配管は必ずスチーム用の保温材(商品名：パイプガードヌレックス)をご使用ください。屋外配管にも使用できます。
(同こんカタログ参照)
- (6)スチーム配管は凝縮水が自然に抜けるように1/100~1/200の先下り勾配を付けてください。
- (7)器具とスチーム配管の接続は鉋金ユニオンを使用してください。

[注] スケール片で配管が詰まることがありますので次のことはしないでください。

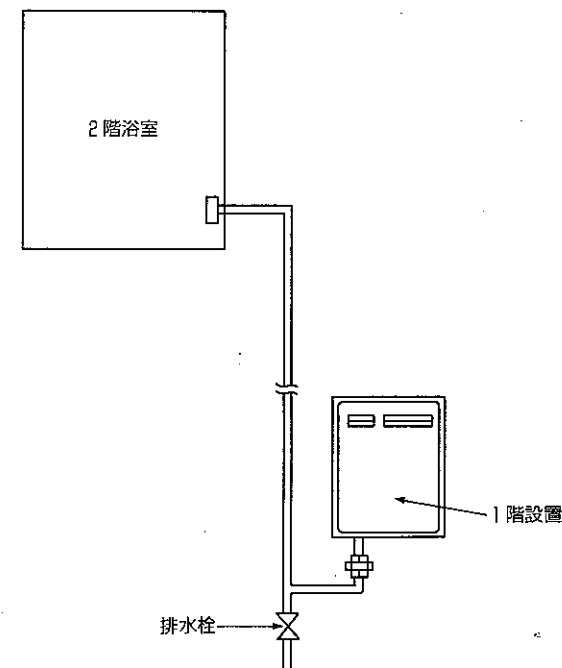
- ソルダー継手パイプは使用しないでください。
- フレキ管で接続しないでください。



- (8)スチーム配管が万一、下図のようになったときは、スチームの凝縮水が抜けなくなりますので必要な箇所に排水栓を設けてください。
凍結防止のためです。
ただし、立上がり、立下りが1000mm以内なら排水栓は不要です。



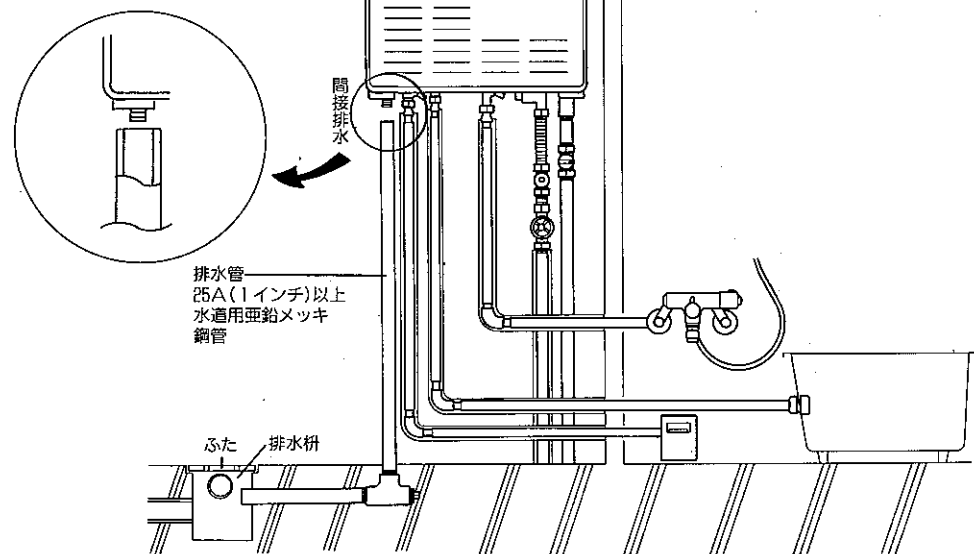
- (9)2階の浴室へスチームを供給する場合は、最下部に排水栓を設けてください。
凍結防止のためです。



- (10)スチームの供給は必ず1カ所にしてください。付属のスチーム吐出器以外は取り付けしないでください。
- (11)スチーム配管の途中に弁類は絶対に取り付けしないでください。
- (12)スチーム配管工事終了後必ず空気圧か水压を加えて漏れ検査をしてください。(2kg/cm²以上)

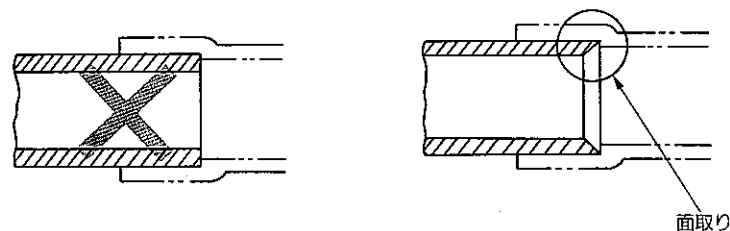
■ 排水配管

- 排水管はできる限り短くしてください。
- 排水管はスケール片も流れますので曲りが多すぎますと詰まります。
- 器具の近くに排水枡を設けてください。
- 図のように間接排水にしてください。



- 間接排水ができない場合は同梱の径違いソケットを使用して必ず25A(1インチ)以上の排水管を接続してください。

排水配管に耐熱塩ビ管を使用される場合は必ず図のように面取りをしてください。面取りをしないとスケール片が詰まります。



排水の温度は100℃です。必ず耐熱塩ビ管をお使いください。

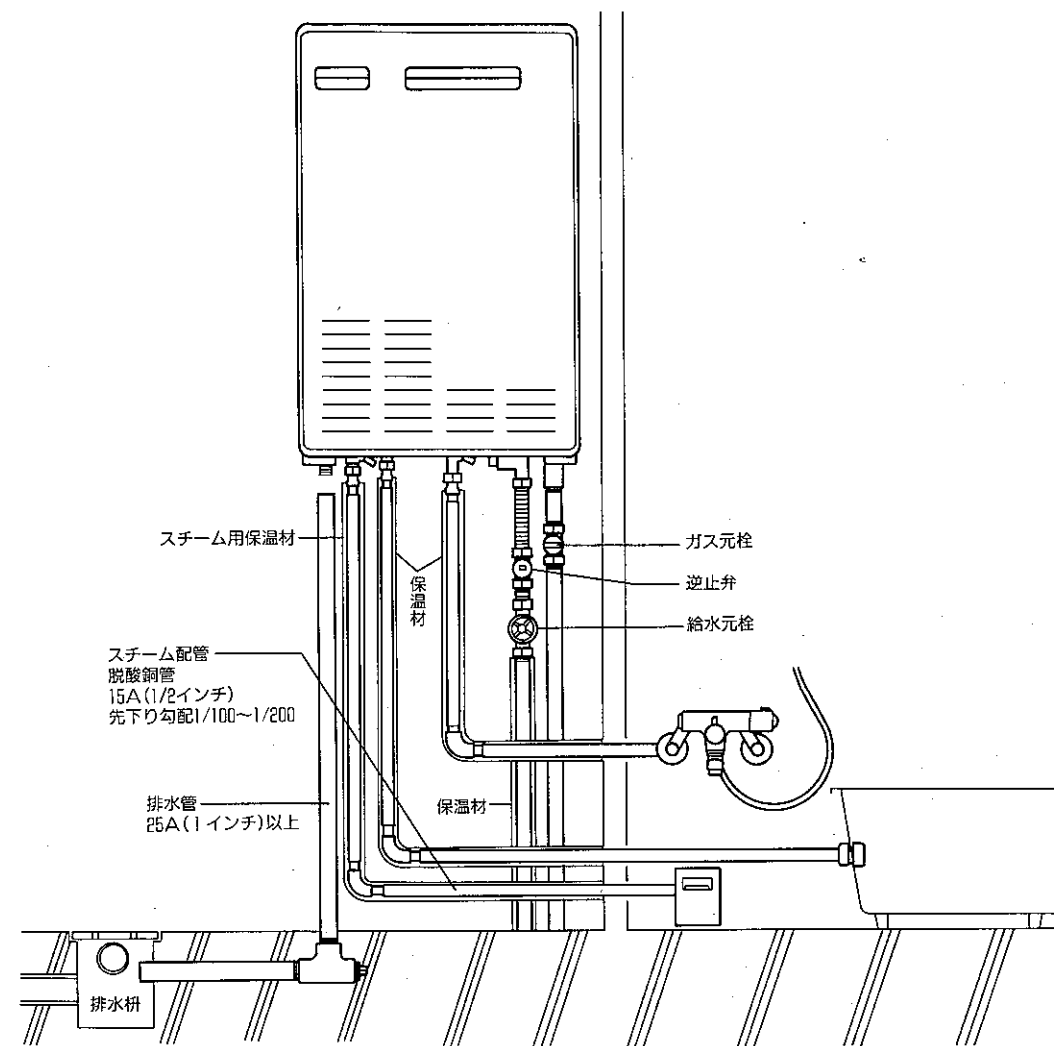
注：集合住宅などで、共用の排水管を使用する場合、排水管は鋼管、または耐熱塩ビ管が必要です。

■ 給水・スチーム・排水配管例

- 給水配管材料、接続方法、シール材は、各市町村水道局(課)承認のものを使用してください。
- スチーム配管は、脱酸銅管をご使用ください。

内部のごみ、工事材料くずなどを洗い出したうえで接続してください。

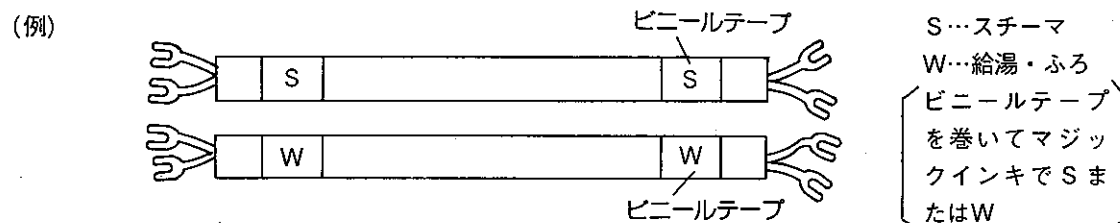
器具の給水接続口の近くに給水元栓と逆止弁を取り付けてください。



電気配線工事

■ 使用ケーブル線

- (1) 器具本体～リモコン間は、2心ケーブル線を使用してください。
- (2) ケーブル線は、動かないようにステッブルなどで固定してください。
- (3) ケーブル線は、直接熱の影響を受けないところに配線してください。
- (4) ケーブル線をコンクリートなどに埋めこむ場合には、電線管などに収めてケーブル線に傷が付かないように保護してください。
 - ・メタルラスなどを有する壁を貫通する場合は、メタルラスなどと金属電線管が接触しないように十分距離を確保してください。
- (5) ケーブル線の総延長が20m以内になるように配線工事を行なってください。
 - ・ケーブル線を電線管に入れて配線をする場合は、ケーブル仕上がり外径は、端子をケーブルにかしめる前と後では、異なりますので注意してください。
- (6) この器具には4個のリモコンがあります。誤接続を防止するためにケーブル線にはあらかじめ印をしておいてください。



設置方式	外 壁 設 置	パイプシャフト内設置
リモコン～器具本体	シールド付リモコンケーブル GW-P 102(灰色、2心、外径φ6.8mm)	シールド付リモコンケーブル (600Vビニル絶縁電線) GW-P 102 P-50 (灰色、2心、外径φ9)
電源コード	器具本体付属品使用	HVCT (600Vビニル絶縁ビニルキャブタイヤケーブル) GW-P 38(3心、外径φ11mm)

・あらかじめ配線の長さを調べ、適する別販品を調達してください。

● ケーブル線の形態と長さ

	形 態	長 さ
外 壁 設 置		
リモコン用	GW-P 102	約φ8mm 3m・5m・8m 10m・15m・20m
	GW-P 102-50	同こん部 (カプセル端子 Y端子 結束バンド アースセン) 50m
パイプシャフト内設置		
リモコン用	GW-P 102 P-50	同こん部 (カプセル端子 Y端子 結束バンド アースセン) 50m
電源コード	GW-P 38	同こん部 (2Pコネクター付リード線 棒圧着端子 カプセル端子 めがね端子) 30m

■ 使用電線管 (保護管)

- ・電気工事をする場合は 1) 電気設備技術基準 2) 電気工事士法 3) 電気用品取締規則 4) 内線規定 等の関連法規を遵守してください。
- なお表中の電線管内径はケーブル線が1本の場合の参考値です。

	1 本	2 本	3 本
収 納 す る ケ ー ブ ル 線	GW-P 38	GW-P 102 P-50(1本) と GW-P 38(1本)	GW-P 102 P-50(2本) と GW-P 38(1本)
使用電線管の呼び径 (薄鋼電線管)	19以上	31以上	31以上

- ・GW-P 102は、電源コードと同一電線管内には収納できません。(法令などで禁止されています。)
- ・GW-P 102 P-50を使用してください。
- ・パイプシャフト内では2種可とう電線管で保護してください。ケーブル線の露出や接続部を作らないでください。

■ 電源

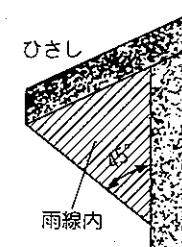
(1) 使用電源の確認

- ・この器具にはAC 100V電源が必要です。
- ・器具本体を設置する場所に電源コンセントがない場合、または、あっても適切でない(位置・容量など)場合には、新設・移設または交換などが必要です。

(2) 電源コンセントについて

〈外壁設置の場合〉

- ・できるだけJIS防雨形防水コンセントを設置してください。
- ・防雨形防水コンセントの場合は、コンセントに雨が掛からないように、次のいずれかの処置を行なってください。
 - ① 雨線内に設置する。
 - ② 外箱などの有効な防雨処置をする。
 - ③ 室内の分電盤を利用する。



■ アース(接地)工事

- ・感電事故防止のため、次のいずれかの方法で必ずアースしてください。

・コンセントにアース端子が付いている場合

本体
アース接続ねじ
アース線 (銅線直径は1.6mm以上を使用する)
コンセント
アース端子

・アース棒を使用される場合

器具本体
アース接続ねじ
地面 (できるだけ湿気た場所を選ぶ)
アース棒 (推奨品) 30cm以上
アース棒 (推奨品)

アース棒(推奨品)はエアコン事業所扱いです。(品番CZ-8923)

- ・電気設備技術基準に基づき、必ず電気工事士による第3種接地工事を行なってください。
- ・器具本体の下面に「アース」表示、本体内部には漏電安全装置の右下部にⓈ表示で接続端子部を示してあります。

〔ご注意〕

- ・ガス管や水道管、電話や避雷針のアース回路または漏電安全装置を入れた他の製品のアース回路には接続しないでください。[法令などで禁止されています。]
- ・アース端子付コンセントを利用される場合には、接地抵抗値[100Ω以下]をご確認ください。

■ 電気配線工事の形態と注意事項

(1) 外壁設置の場合

形 態	注 意 事 項
① 屋外防水コンセントを利用する場合	1. 防水コンセントにアース端子が付いていない場合は、別途、第3種接地工事を行ってください。 2. 防水コンセントは、地上より300mm以上の高さの位置に取り付けてください。 3. コンセントとガス管および水道管とは100mm以上離してください。 4. 器具の水抜き栓からの水が直接コンセントに当たらない位置に設置してください。
② 分電盤を利用する場合	1. 分電盤にアース端子がない場合は、別途、第3種接地工事を行ってください。 2. 100V電源はなるべく専用回路としてください。 3. ガス配管とケーブルとは接触しないようにご注意ください。 4. GW-P38(別販品)の緑色の線はアース線用です。

(2) パイプシャフト設置の場合

形 態	注 意 事 項
	1. パイプシャフト内設置では、ケーブル工事をする。電源コードはパイプシャフト用の電源コード〈GW-P38〉(別販品)を使用してください。 2. ケーブル配線は2種可とう電線管で保護すること。器具から壁貫通穴まで2種可とう電線管で保護してください。 3. パイプシャフト内では、電源用ケーブルおよび接続電線を切断接続しないでください。 4. パイプシャフト内および内壁面には、配線用ボックスを使用しないでください。ただし防爆構造を施したものはこの限りではありません。 5. 電線管がパイプシャフト内壁面を貫通する部分および器具の接続部分はコーキング材によりシールし、パイプシャフトの外との気密が保たれる措置をしてください。 6. 分電盤にアース端子がない場合は、別途、第3種接地工事を行ってください。 7. ガス配管とケーブルとは接触しないようにしてください。

■ パイプシャフト内設置の場合の電気配線工事の注意事項

- パイプシャフト内に器具の電線配線、メインリモコン用などの配線を行なう場合には、電気設備技術基準の第208条の基準に準じた防爆工事を行ってください。
- 電気配線工事はケーブル工事を行ってください。
- ケーブル線(電源用電線・接続電線)は、器具から壁貫通まで2種可とう電線管で保護してください。なお、ケーブル線を切断接続しないでください。
- 2種可とう電線管がパイプシャフト内壁面を貫通する部分および器具の接続部分は、コーキング材によりシールし、パイプシャフトの外と気密が保たれる措置をしてください。
- パイプシャフト内および内壁面には、配線用ボックスを使用しないでください。ただし防爆構造を施したものはこの限りではありません。

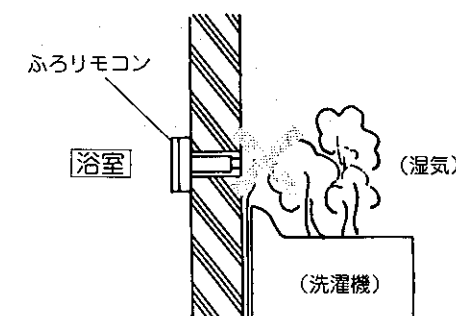
■ ふろリモコンの取付方法

① 重要禁止・注意事項

- ① 壁に穴をあけるときの、大きくあけすぎますとふろリモコンの固定ができなくなりますので、特にご注意ください。
- ② ふろリモコン取付工事のときに必要のないねじは絶対に締め付けたり、ゆるめたりしないでください。(シール性能が悪くなることがありますのでご注意ください。)
- ③ 浴室へ取り付ける場合、壁に貫通穴をあけますので、壁の内部にある柱・鉄筋の位置をご確認のうえ、取付場所を決めてください。
- ④ ふろリモコンは防湿構造になっていますから、パッキンのそう入、ねじ締めめときは、慎重に作業を行ってください。(特に、ごみ・異物の混入、パッキンの位置ずれにご注意ください。)

② ふろリモコンの取付場所

- 温水・または水が直接かかりにくい場所を選んで、ふろリモコンを取り付けてください。
- 壁を貫通した空気抜きパイプの先端は、湿気の激しい場所をさけてください。



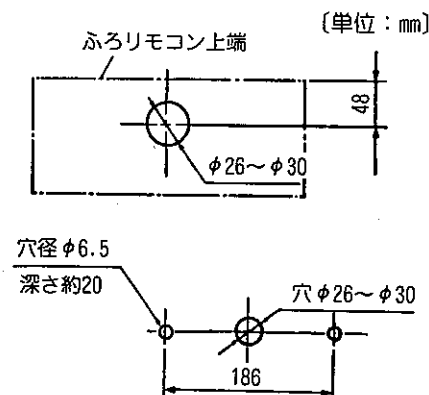
③壁取付穴の穴あけ

- $\phi 26 \sim \phi 30$ の空気抜きパイプ用の貫通穴を壁に対して直角にあけてください。

〔注〕ふろリモコンは裏面の両面テープで固定できますが、より確実に取付けするときは、同こんの木ねじ(2コ)で固定してください。

壁がタイルなどで木ねじが使用できないときは $\phi 6.5$ 深さ20mmのP Yプラグの下穴をあけてください。

〔図のように穴をあけ、同こんのP Yプラグを打ち込みます。〕

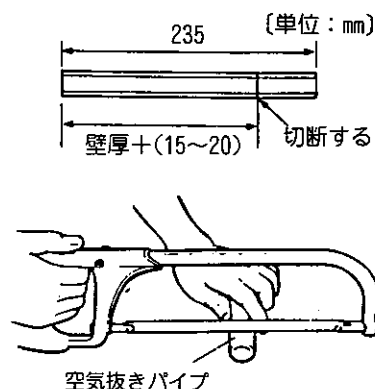
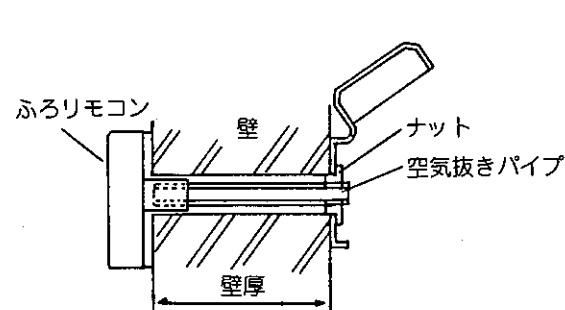
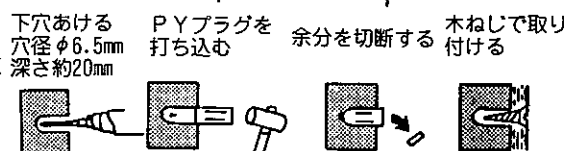


④浴室への取り付け

- 壁厚が70～220mmの間で取り付けができます。空気抜きパイプを下記の要領で切断して取り付けてください。

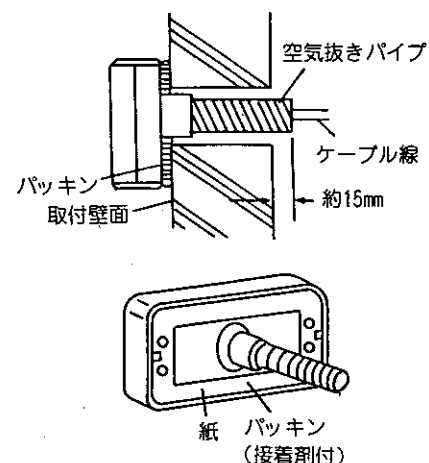
壁厚が220～335mmの場合

別販品の厚壁スリーブ〔品番：A D-3722-1〕を使用してください。



⑤ふろリモコンを壁面に固定します。

- ①空気抜きパイプにケーブル線を通します。
- ②空気抜きパイプの長さが壁厚より約15mm長くなるように空気抜きパイプをねじ込んでください。
- ③パッキンの付く壁面を水気が残らないよう乾いた布などでよくふいてください。
- ④ふろリモコンのパッキン(接着剤付)に貼り付けている紙をはがしてください。



- ⑤ふろリモコンが傾かないよう注意して壁面に押し付け、固定してください。

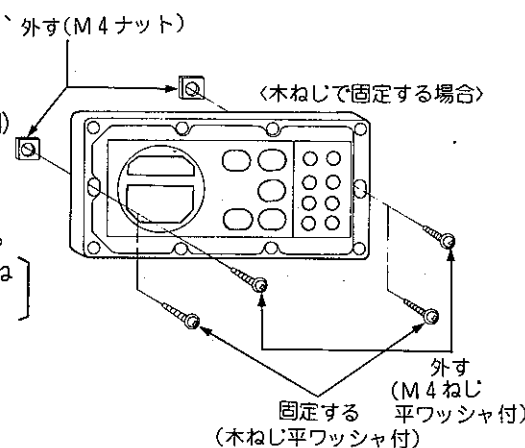
- ふろリモコンを木ねじで固定する場合は

- ①ふろリモコン左右2箇所のM4ねじ(2本)とナット(2個)を外します。

- ②同こんの木ねじ(2本)で固定します。

木ねじの先にシリコンコーキング剤を塗ってください。

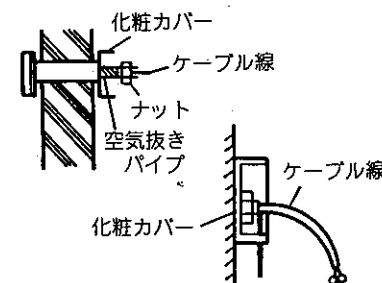
〔P Yプラグの穴位置が合っていることを確認し、木ねじで固定します。〕



⑥ナットで化粧カバーを壁に固定します。

ケーブル線をチューブに入れます。

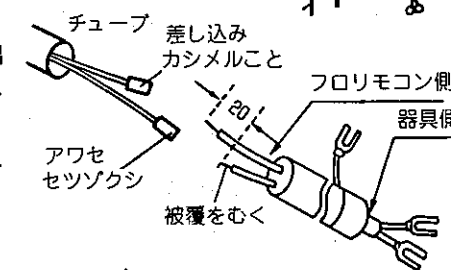
面に飛び出した空気抜きパイプにナットを締め付けて固定してください。



⑦ケーブル線の接続

チューブをケーブル線に入れます。

器具本体からのケーブル線の被覆をむき心線を約10mm出しふろリモコンから出ているケーブル線の先端に接続しているアワセセツゾクシの中に入れカシメてください。チューブでカシメ部をカバーしケツソクバンドでチューブを結束してください。



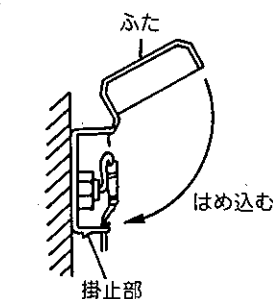
⑧ケーブル線の処理

接続部が化粧カバー内におさまるように、ケツソクバンドで結束してください。



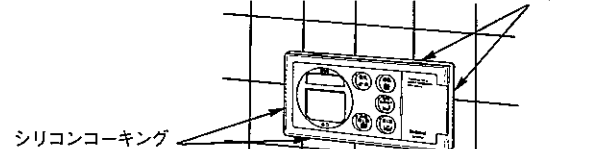
⑨化粧カバーを取り付けます。

化粧カバーのふた部分を右図のように掛止部にはめ込んで固定してください。



⑩周囲をシリコンコーキングします

取り付け終了後、壁面とふろリモコンの周囲をシリコンコーキングしてください。



■ メーンリモコンの取付方法 (給湯・ふろ用メーンリモコン)

給湯ふろ用メーンリモコンとスチーマ用メーンリモコンを並べて取り付けられる時は、どちらか一方のケーブルに印をしておいてください。誤接続防止のために重要です。(23ページ参照)

①重要禁止・注意事項

- (1)壁に穴をあけるときの、大きくあけすぎるとメーンリモコンの固定ができなくなりますので、特にご注意ください。
(P Yプラグ用の下穴は、使用されるP Yプラグに合わせてください。)
- (2)メーンリモコン取付工事に必要のないねじは絶対に締め付けたりゆるめたりしないでください。
- (3)取り付ける場合、壁に貫通穴をあけるときは、壁内部にある柱・鉄筋の位置をご確認のうえ、取付箇所を決めてください。
- (4)ケーブル線は、2心シールド付ケーブルを使用してください。
- (5)ケーブル線は、うごかないようにステップルなどで固定してください。
- (6)ケーブル線は、直接熱の影響を受けないところに配線してください。
- (7)ケーブル線をコンクリートなどに埋め込む場合には、電線管などに収めてケーブルに傷が付かないように保護してください。
・メタルラスなどを有する壁を貫通する場合は、メタルラスなどと金属電線管が接触しないように十分距離を確保してください。
- (8)工事を行なう時は、電源プラグをコンセントから抜いてください。
- (9)ケーブル線の総延長が20m以内になるように配線工事を行なってください。

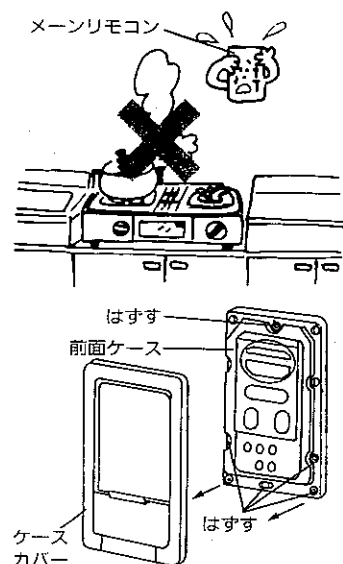
②設置場所のご注意

- ①ガステーブル・こんろなどの燃焼器具の上には、メーンリモコンを取り付けしないでください。
・異常に過熱しますと、変形したり、電気部品が破損したりします。
・油分や空気中のほこりが内部に入りますと、いちじるしく性能が悪くなります。
- ②直射日光や、水しぶき、蒸気、水滴のかかる場所には取り付けしないでください。

③メーンリモコンの取付方法

取付前の準備

- ・ケースカバーをはずしてください。
- ・メーンリモコンのねじ(5本)をはずし、前面ケースと背面ケースをはずしてください。

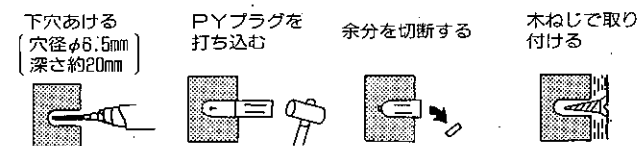


ケーブル露出配線の場合

- (1)背面ケースを同こんの丸皿頭の木ねじ(2本)で壁に取り付けてください。

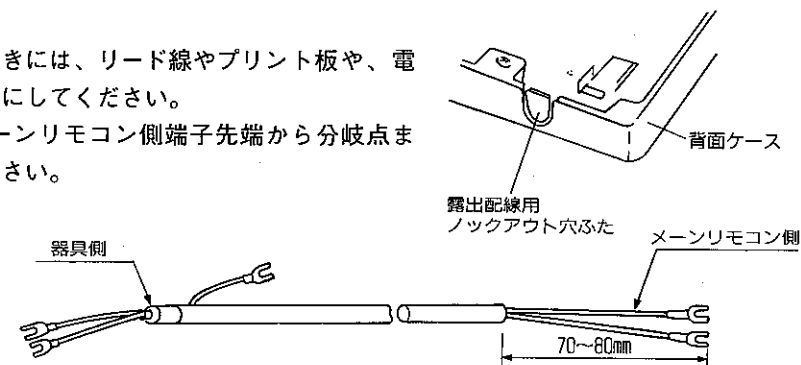
[注]

- ・背面ケース接続リード線に1kgを越える過度な力が加わらないようにしてください。
- ・壁が弱い状態のときは、「はり」などの補強をしてください。
- ・コンクリート・モルタルなどの壁のときは、P Yプラグ(付属品)を壁に打ち込み、丸皿頭木ねじで取り付けてください。



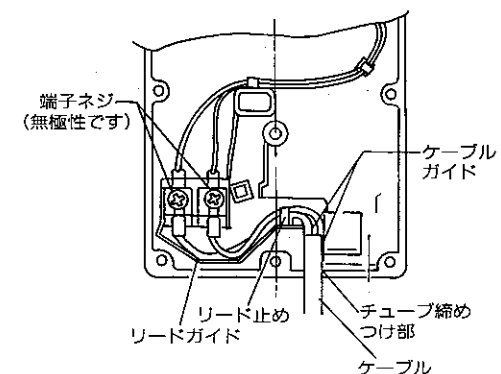
(2)ケーブル線の接続準備

- ①メーンリモコンの露出配線用ノックアウト穴をニッパー、ナイフなどであけてください。
・ノックアウト穴をあけるとときには、リード線やプリント板や、電子部品に傷を付けないようにしてください。
- ②2心ケーブルの加工寸法はメーンリモコン側端子先端から分岐点までを70~80mmに加工してください。



(3)メーンリモコンとケーブル線を接続してください。

- ①端子ネジをゆるめケーブル線の端子を端子台にとりつけ、端子ネジを締め付けて接続してください。(2本)
- ②2心リード線をリードガイド内にはわしリード止めに止めてください。ケーブル線はケーブルガイド内におさめてください。
- ③チューブ締め付け部は前面ケースを取りつけたとき、ケースのリブに締め付けられケーブルが固定されるようになっています。シールドケーブルで分岐点の絶縁処理をする場合、チューブ締め付け部はテープやチューブで分厚くならないようにしてください。



(4)メインリモコンの背面ケースと前面ケースを組立て、ケースカバーをはめこんでください。

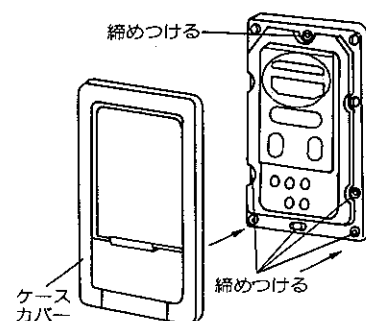
①背面ケースに前面ケースを合わせます。

【注】チューブ締め付け部以外ですきまが生じる場合は、リード線がケース等にかみこむ等の障害を直してください。

②ケース締め付け用のねじ(5本)を締め付け背面ケースを固定してください。

③ケースカバーをはめこんでください。

(5)ケーブル線をステップルで壁に固定してください。



ケーブル埋込配線の場合

(1)ケーブル線の接続準備

スイッチボックス用のノックアウト穴をあけてください。(ニッパーで切り取ってください。)

- ノックアウト穴をあけるときには、プリント板や、電子部品に傷をつけないようにしてください。
- 2心ケーブルの加工寸法はメインリモコン側端子先端から分岐点までを85~100mmとしてください。余分なシールド線は、切り取ってください。
- GW-P102を用いる場合は、ケーブル被覆を更に15mmむき加工をし、余分なシールド線を切り取ってください。加工部はテープなどで絶縁してください。

(2)背面ケースを壁に取り付けてください。

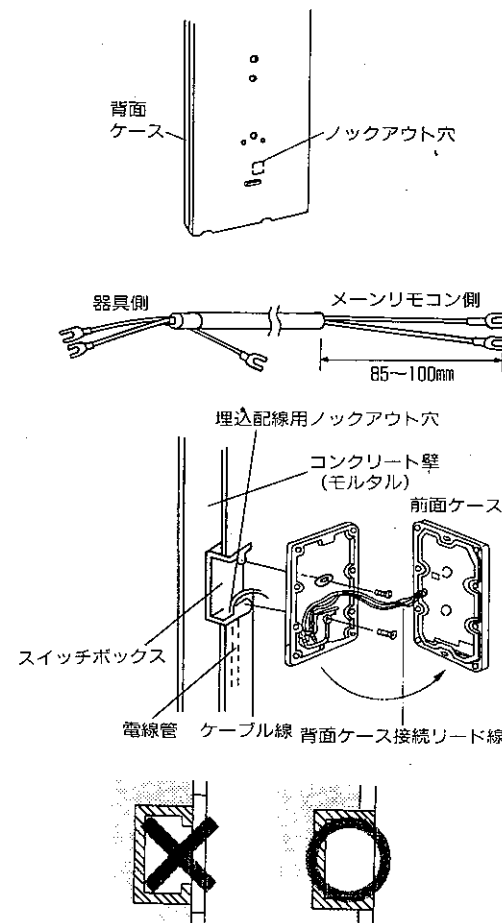
①事前工事として、壁に電線管を設けてから、室内側にスイッチボックス(1個用)を取り付ける。

【注】スイッチボックスは、必ず壁の仕上げ面と同一面となるようにする。

②ケーブル線を電線管からスイッチボックス側より挿入し、背面ケースのノックアウト穴からケーブル線を引き出しておいてください。

③配線ボックスの取り付けねじ穴に、背面ケースの配線ボックス取り付け用穴を合わせ、同こんの丸皿頭ねじ(2本)で固定してください。

【注】電線管の径は、ケーブル線の仕上がり外径・使用本数・接続端子の有無により選定してください。



(3)メインリモコンとケーブル線を接続してください。

①メインリモコン背面のノックアウト穴からそう入されたケーブル線を引きだし、リード止めに止めてください。(右図参照)

②端子ネジをゆるめケーブル線の端子を端子台にとりつけ、端子ネジを締め付けて接続してください。(2本)

③2心リード線をリードガイド内にはわせ、余ったリード線はスイッチボックスに戻してください。

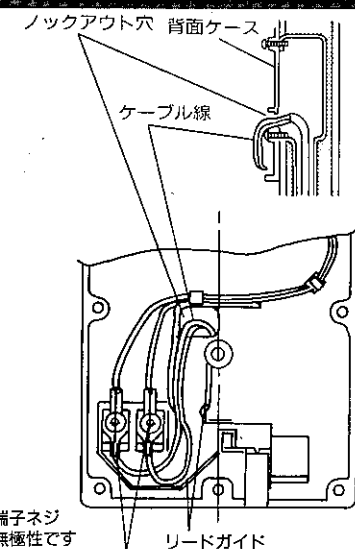
(4)メインリモコンの前面ケースと背面ケースを組み立て、ケースカバーをはめこんでください。

①背面ケースに前面ケースをあわせます。

【注】ケース間にすきまが生じる場合は、リード線がケース等にかみこむ等の障害を直してください。

②ケース締め付け用のねじ(5本)を締め付け背面ケースに前面ケースを固定してください。

③ケースカバーをはめこんでください。



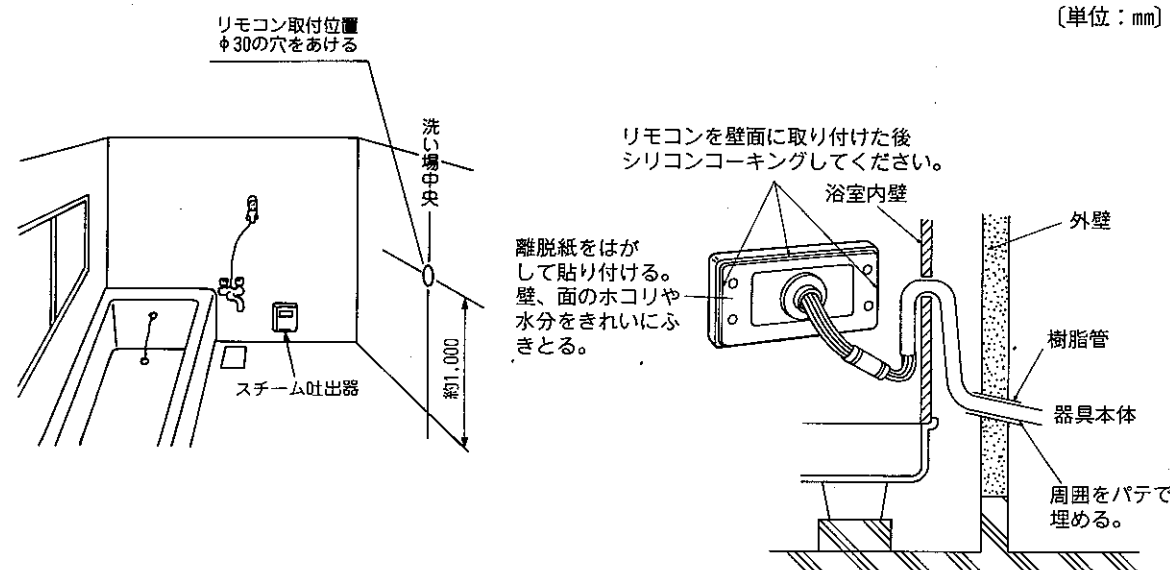
浴室リモコンの取付方法 (スチーマ用)

重要禁止・注意事項

• 浴室リモコンには室温コントロール用のセンサが内蔵されています。下記の項目は必ず守ってください。

- ①スチーム吐出器の近くには取り付けないでください。浴室の温度コントロールができません。
- ②洗い場の床面から約1000mmの高さに取り付けてください。浴室温度コントロールを正確にするためです。
- ③取り付ける場所は洗い場側の壁面にしてください。
- ④スチーム吐出器とリモコンは同じ壁面に取り付けないでください。浴室温度コントロールが正確にできません。

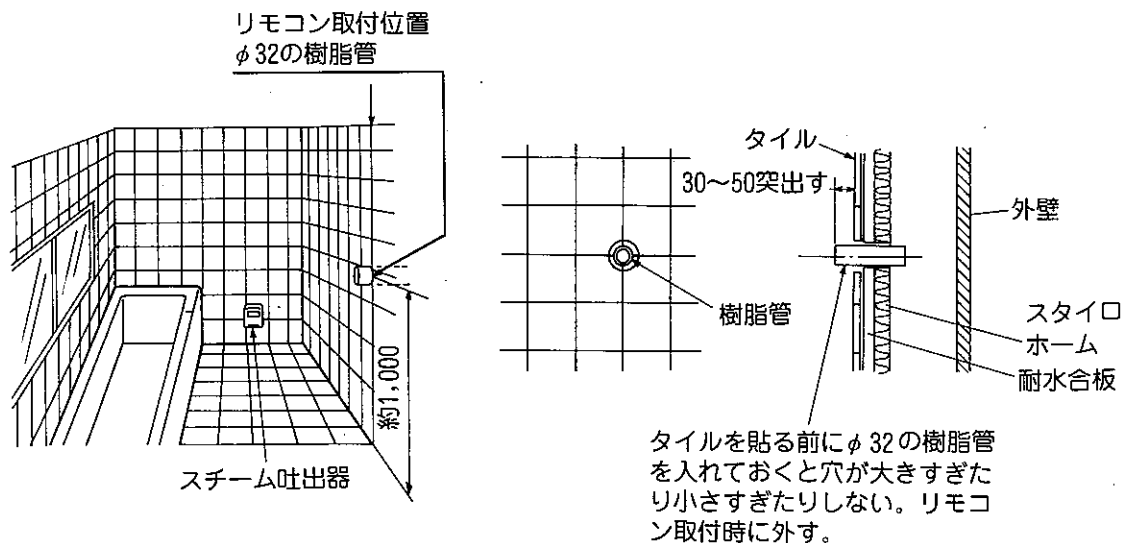
ユニットバスの場合



ケーブル線の接続

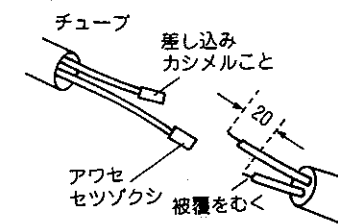
- チューブをケーブル線に入れる。
- 被覆をむき心線を約10mm出す。
- 心線をアワセセツゾクシの中に入れカシメる。
- チューブでカシメ部をカバーし、ケツクセンで結束する。

乾式工法によるタイル浴室の場合



ケーブル線の接続

- チューブをケーブル線に入れる。
- 被覆をむき心線を約10mm出す。
- 心線をアワセセツゾクシの中に入れカシメる。
- チューブでカシメ部をカバーし、ケツクセンで結束する。



取り付け終了後、壁面とふろリモコンの周囲をシリコンコーキングしてください。

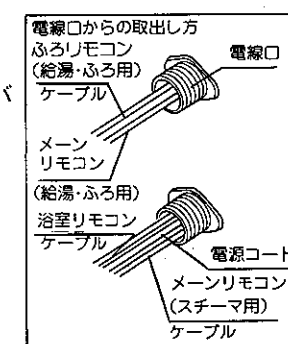
注) シリコンコーキングは「ユニットバス」「乾式工法によるタイル浴室」のいずれも必要です。

器具本体へのケーブル線接続方法

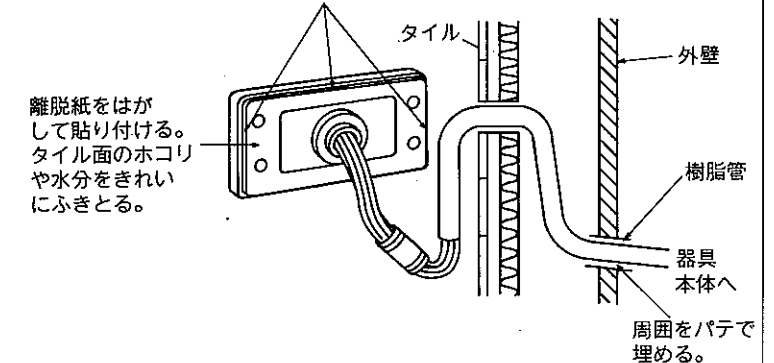
- (1) 器具本体の電源プラグをコンセントから抜き器具本体の前板を取はずしてください。(ねじ4本)
- (2) 器具本体底面の電線管口からケーブルを引き込んでください。
- (3) リモコン用ケーブル線は、電装ユニットにある端子台に接続してください。

【注】

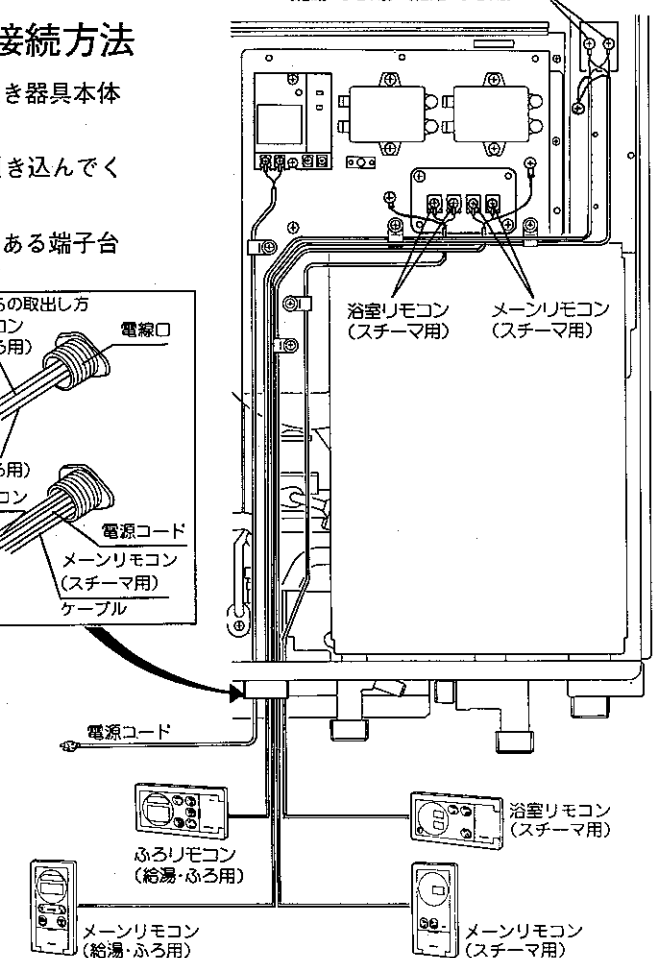
- ケーブル線は、ケーブル固定バンドで必ず固定してください。



リモコンを壁面に取り付けた後、シリコンコーキングしてください。



ふろリモコン・メーンリモコン(共締め)
(給湯・ふろ用) (給湯・ふろ用)



- (4) 配線完了後、器具本体の前板を取り付けてください。(ねじ4本)

■ テレコントロールシステムとの接続（給湯・ふろ用）

・ J E M A 標準 H A 対応機器 (J H A S) へ接続する場合

①ジャンパ線をカットします。

- ・ J P 7 のみカットしてください。

②テレコンシステムと接続します。

- ・ テレコンシステムのコネクタ (4 P) を C N 1 へ挿入してください。

・ 松下通信工業 (株) 製 V J - 501, 503 へ接続する場合

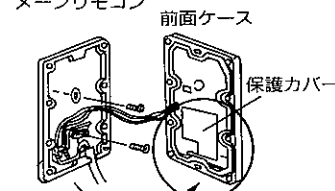
①ジャンパ線をカットします。

- ・ J P 5, J P 6 の 2 本をカットしてください。

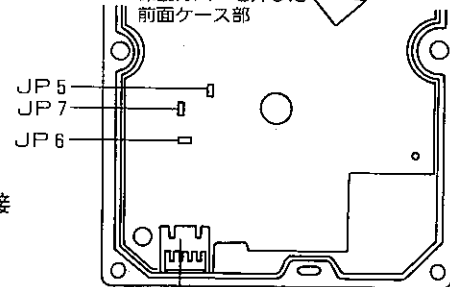
②テレコンシステムと接続します。

- ・ 付属のテレコン用リード線を C N 1 へ挿入してください。
- ・ テレコンシステムの 3 心線 (青・黄・緑) と色をそろえて接続します。いずれも詳しくはテレコンシステムの説明書をよくお読みのうえ、正しく接続してください。

給湯ふろ用
メインリモコン



保護カバーを外した
前面ケース部



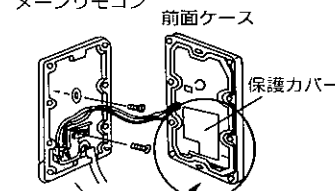
C N 1 テレコン用接続コネクタ

スチーマ用メインリモコンも上記と同じ要領で行ないます。(コネクタは C N 2 になります)

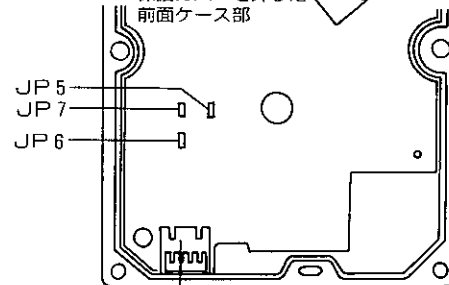
〔注〕

テレコントロールとの接続は、ガス種によって適応しない場合がありますので、採用の際には事業部へご相談ください。

スチーマ用
メインリモコン



保護カバーを外した
前面ケース部



C N 2 テレコン用接続コネクタ

設置および工事が終わりましたら、もう一度確認してください。

■ 器具およびその周辺 (3 ~ 6 ページ参照)

- (1) 可燃物との距離および火災予防上の処置は十分ですか。
- (2) 器具の設置場所のふん囲気は大丈夫ですか。
- (3) 点検・修理などの保守・管理上必要な空間がありますか。
- (4) 設置条件を満足していますか。

■ 給水・給湯配管

給水元栓を開け、配管中の空気を抜くために全部の給湯栓を開けて、水が出ることを確認したあと、全部の給湯栓を閉め、しばらく放置してから水漏れがないか調べてください。このときは電源コードをコンセントから抜くか、またはリモコンの運転スイッチを「切」にしてください。

■ 自動給湯配管

器具と接続する前に、溶ダー継手 (15 A) に圧力 (約 2 k g / c m ²) を加え、圧力計により圧力降下のないことを確かめてください。

(漏れ検査治具 G U - P 20 を利用してください。)

- ・ 2 k g / c m ² 以上の圧力を加えないでください。

■ ガス配管

ガス元栓を開け、各接続部に検知液、または石けん水を塗り、ガス漏れがないか調べてください。

■ スチーム配管

保温材で被覆されていますか。

■ 排水配管

間接排水になっていますか。

■ 電気配線工事 (23 ~ 35 ページ参照)

- (1) リモコンから本体電装ユニットへのケーブル配線は指定された位置になっていますか。
- (2) ケーブルの端子部のねじはよく締まっていますか。
- (3) 接地工事はされていますか。
- (4) 配線接続部に短絡箇所はありませんか。

試点火および試運転

■ 試点火および試運転

(1)ガス配管中の空気抜き

- ・ガス配管中の空気を完全に抜いてからでないと、火はつきません。

(2)取扱説明書に基づき、試運転を行なってください。

(詳しくは、取扱説明書の「使いかた」をお読みください。)

(注) 自動お湯はり運転は、浴そうに水(湯)がない状態から始めてください。

(残り湯があると正確な水位検知ができません。)

(3)試運転時に異常が発生しましたら、取扱説明書の「故障かな?」を参照しながら確かめてください。

(4)試運転が終わりましたら、凍結防止のため水抜きを必ず行なってください。(取扱説明書「凍結防止について」の項参照)

■ テレコントロールでの試運転

テレコントロールシステム取扱説明書に基づき、最寄りのプッシュホンより動作確認を行なってください。

■ 水ストレーナの掃除

試運転が終わりましたら、給水接続口にある水抜き栓を取り外し、ストレーナの掃除を行なってください。

■ お客様への説明

(1)取扱説明書によって、取扱方法をご説明ください。特に「特に注意していただきたいこと」「使いかた」をよく説明してください。

(2)保証書に必要事項を記入のうえ、お客様にお渡しください。また取扱説明書に従って「アフターサービス」についてご説明ください。

(3)この工事説明書は取扱説明書とともにお客様にお渡しください。

仕様

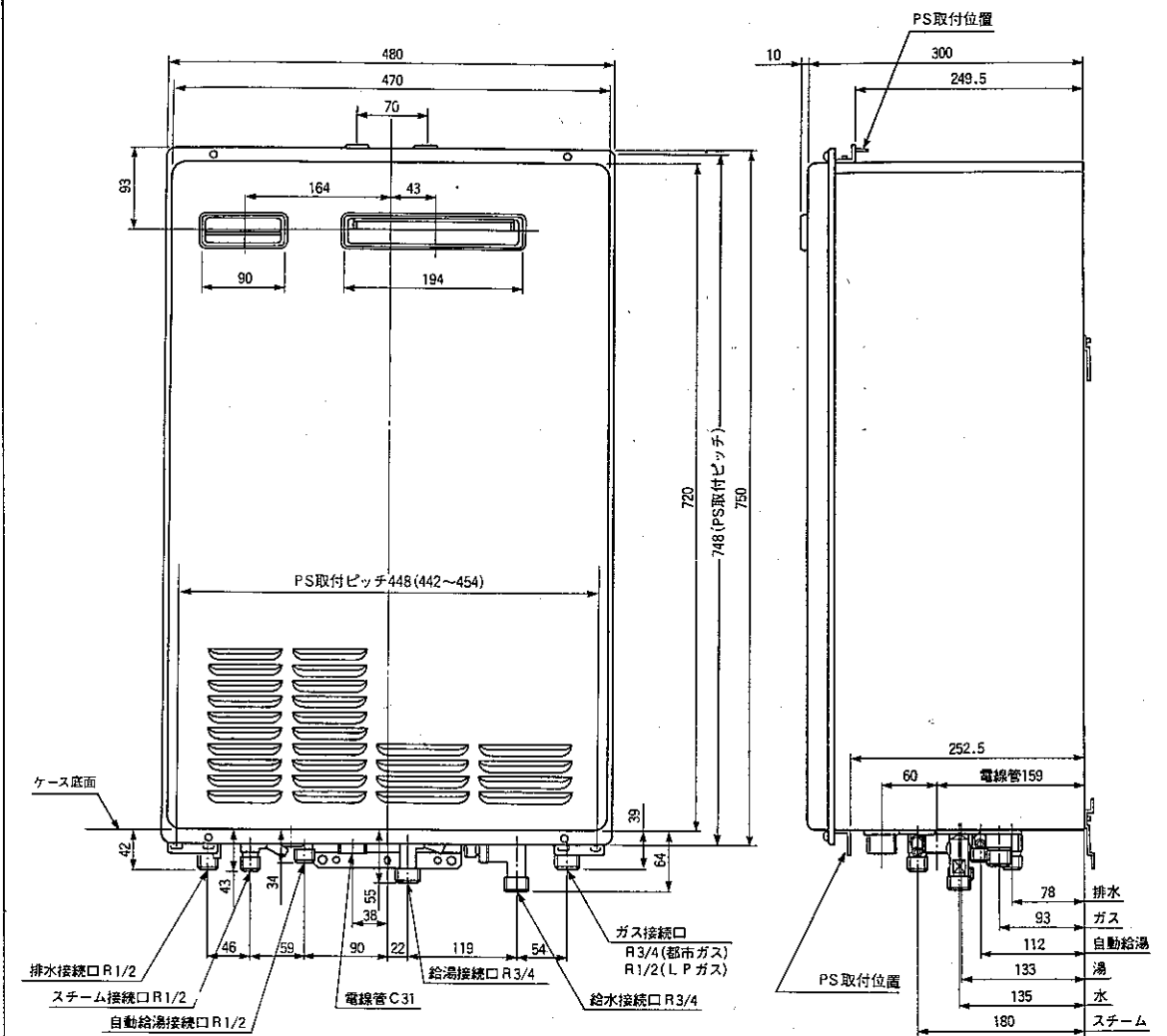
品名		ガススチーマシステム	
品番		GX-Z241TX	
種類	給湯方式	先止め式	
	設置・給排気方式	屋外用・強制排気式	
点火方式		放電点火式	
水圧	使用水圧	0.7kg/cm ² 以上	
	作動水圧	0.15kg/cm ²	
外形寸法	本体	高さ750mm×幅480mm×奥行300mm	
	ふろリモコン	高さ96mm×幅198mm×奥行20mm	
	メーンリモコン	高さ198mm×幅96mm×奥行21mm	
	浴室リモコン	高さ96mm×幅198mm×奥行20mm	
	スチーマ用メーンリモコン	高さ198mm×幅96mm×奥行21mm	
重量	本体	43.5kg	
	ふろリモコン	0.3kg	
	メーンリモコン	0.3kg	
	浴室リモコン	0.3kg	
	スチーマ用メーンリモコン	0.25kg	
接続	ガス	LPガス用15A(R1/2)・都市ガス用20A(R3/4)	
	給水	20A(R3/4)	
	給湯	20A(R3/4)	
	自動給湯	15A(R1/2)	
	スチーム	15A(R1/2)	
	排水	25A(R1) : 径違いソケット使用時	
電気関係	電源	AC100V 50/60Hz	
	消費電力	LPガス用	380W(最大燃焼時140W+凍結予防ヒータ240W)
		都市ガス用	374W(最大燃焼時134W+凍結予防ヒータ240W)
	(リモコンスイッチ「切」のとき: 約26W)		
湯温制御方式	電子式ガス比例制御方式		
	容量: 200ℓ~300ℓ(1人~2人用)		
安全装置		立消え安全装置・空だき安全装置(給湯)・残火安全装置(給湯)・空だき安全装置(スチーマ)・過熱防止装置・過圧防止安全装置(給湯)・誘導雷保護装置・漏電安全装置・圧力安全弁(スチーマ)・凍結予防ヒータ・電流ヒューズ	
付属品		給湯ふろ用メーンリモコン(一式)・スチーマ用メーンリモコン(一式)・ふろリモコン(一式)・浴室リモコン(一式)・ソルダー継手パイプ(一式)・アース線・取付板・スチーム吐出器・ハーブサンプル・径違いソケット	
別販品		2心ケーブル・ふろリモコン埋込みボックス・ふろリモコン用厚壁スリーブ・ユニットバス取付金具・ふろ接続アダプター・漏れ検査治具・排気カバー・厚肉浴槽用ふろ接続アダプター・PS金枠・PS用電源ケーブル・PS用リモコンケーブル・2階浴そう用給湯ユニット・据置台セット・配管カバーセット	

仕 様

外形寸法図

使用ガス 使用ガスグループ		型 式 名	1時間当たりのガス消費量			出湯能力(ℓ/分)水圧: 1 kg f / cm ² 時	
			給 湯		同時使用 (スチーマ・給湯)	能 力 大	
			大	小(参考値)		水温+25℃ 上 昇	水温+40℃ 上 昇
都 市 ガ ス 用	4 A	GX-Z241TX					
	4 B						
	4 C						
	5 A		39,000kcal/h	4,700kcal/h	45,000kcal/h	(20.8)	(13.0)
	5 AN						
	5 B		38,600kcal/h	4,700kcal/h	44,500kcal/h	(20.6)	(12.9)
	5 C		42,000kcal/h	4,700kcal/h	51,500kcal/h	(22.4)	(14.0)
	6 A						
	6 B						
	6 C						
	7 C						
	1 2 A		41,900kcal/h	4,400kcal/h	52,000kcal/h	(22.4)	(14.0)
1 3 A	45,000kcal/h	4,700kcal/h	56,000kcal/h	(24.0)	(15.0)		
LPガス用			3.75kg/h	0.39kg/h	4.65kg/h	(24.0)	(15.0)

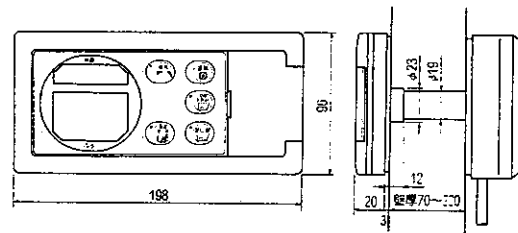
使用ガス 使用ガスグループ		型 式 名	ス チ マ			
			1時間当たりの ガス消費量(最大)	1時間当たりの ガス消費量(最小)	蒸 発 能 力	
					出力「最大」	出力「最小」
都 市 ガ ス 用	4 A	GX-Z241TX				
	4 B					
	4 C					
	5 A		11,400kcal/h	2,800kcal/h	210 g/min	44 g/min
	5 AN					
	5 B		11,300kcal/h	2,800kcal/h	208 g/min	44 g/min
	5 C		11,400kcal/h	2,800kcal/h	210 g/min	44 g/min
	6 A					
	6 B					
	6 C					
	7 C					
	1 2 A		10,600kcal/h	2,600kcal/h	195g/min	37g/min
1 3 A	11,400kcal/h	2,800kcal/h	210g/min	44g/min		
LPガス用			0.95kg/h	0.26kg/h	210g/min	44g/min



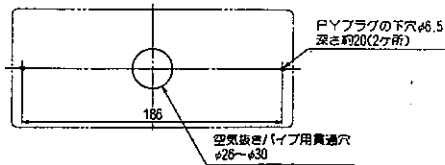
外形寸法図

メモ欄

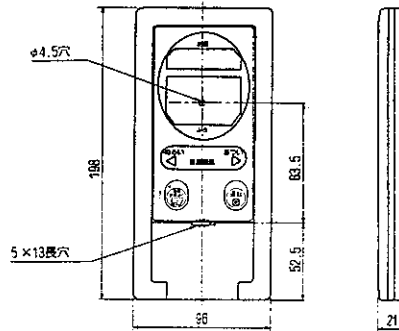
■ふろリモコン(給湯・ふろ用)



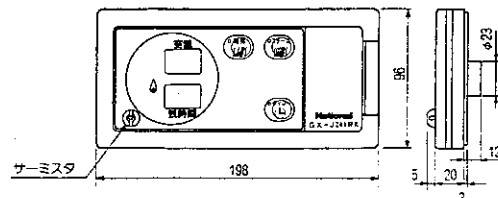
<取付穴配置図>



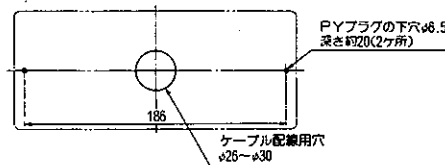
■メインリモコン(給湯・ふろ用)



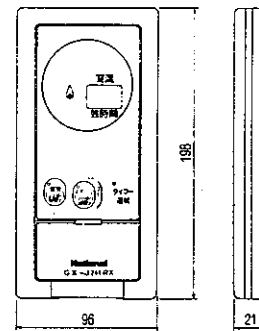
■浴室リモコン(スチーマ用)



<取付穴配置図>



■メインリモコン(スチーマ用)



■スチーム吐出器

